

# 日本の寓話、童話、民話、伝説、説話等の系譜的総合的研究

— 諸外国のそれら (すなわち Fabel, Märchen, Volkssage u.s.w.) との  
比較において —

Treatise on the fable and the others  
from the comparative point of view

## 〔第三報〕

馬場 喜敬・中地万里子・川合 貞子・加藤 優子

### 寓話と「海上の道」

— 日本と西サモア —

〔第三報—その1—〕

馬場 喜敬

#### I

三河の国の伊良湖崎の岬より遠からぬ所、とある砂浜に打ち上げられていた椰子の実、三つ。柳田国男の空想はここからはじまる。この椰子の実、何処方より来らん、はるか大海のかなたの土地に在りしならむ椰子の実がその地の海辺をはなれたるはいつぞ。海上、風雨にさらされ、波にもまれ、日に照らされ、その旅路、迷子のように曲線を描きしこともありしならん。漂流のおぼつかなさ、陸を見失ないし如きときもありしならむが、いま、現実に、この浜辺に身を横たえて、われこれを見る。— 柳田の脳裡には、椰子の実の軌跡として一本の糸のように「海上の道」がうかんでくる。

この「海上の道」を通して、現・日本の生活文化のいくつかは移植されたのではなからうか。ひょっとしたら原・日本人の一系統も含まれていたのではないか。— 「海上の道」という著

書から、ここまで読みとりうる資料が引き出せるとする専断は抑制されねばならないであろうか。且つ、この「海上の道」は、まずは南西諸島に向い、或いはその近隣にとどまって、遠く赤道の周辺の島々には及んでいない如くである。しかし、空想の翼をもう一度はばたかせ、「軽びいみじう」、おもいを南半球にいたらせることも、“堅き禁断”のもとにあるとはおもわれない。

今日、ジェット機は「海上の道」を見下ろしつつ、日本から赤道周辺の島々まで、まる一昼夜を要せずして達することができる。このジェット機は、空想を助長するものなのか、或いはかえって扼殺してしまうものか、いまはひとまず問わずにおこう。代わりに、「海上の道」の岩波文庫版(1978年)の末尾にある大江健三郎の文章から、二、三ヶ所をとり集め引用する。

「海上の道」におさめられた作品すべては、それぞれがわれわれの民俗の古層の、これよりほかの方法ではそこに向けて超えることのできぬ、海上の道をつたって来た人々へ向けての、その想像力的な乗り超えの助走をジャンプを繰り返している。……[そこで] ≪それは詩であり、文学であり、……また神話で

さえある」との批判的評言もおこなわれることになる。……[しかし]「海上の道」に喚起される想像力の勢い、その指向性に立つ後進の研究者が、柳田が実際それを期待したように、かれの仮説を科学的にうちくずすとす。その時むしろさらにあきらかに、柳田がその詩的言語・文学表現の言葉で喚起した想像力の質が、科学的な作業仮説そのものであったと証明されよう。

## II

ニュージーランド、マオイ族の踊りと、それに付随する小道具などが、日本の二三の地域(信州諏訪地方など)と共通性があるという指摘は、上記の文を草した私にとっても、早目にやってきたおどろくべき事例であった。ただこれは、すぐさま、その場で、公認をうけたとみてよいのかどうか。

ともかく、私が、私の〈サモア資料〉からヒントを探し出そうとする以前に、サイは投げられてしまった。なお上の事例は〈映像資料〉である。本報告においては、これからも〈映像資料〉を〈文献資料〉と同格のものとして使っていくことを予め記しておきたい。

以下、若干の「サモア」生れのお「話」を記述する。

### ①—ココナツの起源(シナとうなぎ)

何年も前、レオネの村に、村人たちが水浴と洗濯に使うプールがあった。プールの名はブナロアといった。或日、王女のシナSinaは、プールに水浴に行き、そこに一匹のうなぎが泳いでいるのを見て、びっくりしてしまった。「王女シナさま」とうなぎはよびかけた。「おどろかないで下さい。害などいたしません。」「お前はここにいてはいけません。」王女は答えた。「お前は〈村の名もない人々〉aumaa-gaがやって来る前にここを去らなければなりません。さもないとかれらはお前を殺すでしょう。」

うなぎにとって、このプールから迷えることは不可能であった。そこでかれはシナにいった。「もし村の人たちが自分を殺したなら、あなたはあたしの頭をあなたの家の正面に埋めて下さい。そうすれば、それは果物を実らせ、大いにあなたのお役に立つことでしょう。村の人々は到着し、立ちどころにうなぎを殺した。シナは彼女にうなぎが指示したことを果した。彼女はうなぎの頭を、彼女の家の前に埋めた。それは大へん背の高い樹に成長した。そしてうなぎのこぼが本当であったように、それはたくさんの果実をならせた。すなわちココナツを。それは、本当にシナと彼女の家族に大いに役立った。

シナはのどがかわいたときにはいつも、ココナツの一つをわって、それから果汁を飲んだ。ココナツの実の上には、三つのしるしがあった。これらのしるしは、シナが埋めたうなぎの鼻、口、眼をかたどっていた。樹の幹はうなぎのからだを象どっていた。

付記：ココナツはこの島で有用な樹である。それは多くの用途がある。家を建てること、魚とりのわなを織ること。籠、箒、帽子、箕(扇)、スカート(ペティコート)、装飾品、飲物、食料、などなどの用に供される。

### ②—かめとさめ(ふか)

ヴァイトギの村に、盲目の老女とかの女の孫娘が住んでいた。フオニニア、フオニニアとして知られていた。かの女たちはその聚落でのきわめて大家族の出であった。その家族はサイレツリーとして知られていて。あるとき全村が大飢饉に見舞われた。人々は餓えて死んでいった。誰もが自分自身のことしか考えられなかった。盲目の老女と孫娘のことも例外ではなかった。家族の者はこの老女と孫娘に何一つ分け与えようとしなかった。そこで老女は大へんおそれすみ、大へんな失望をもって、自分たちはもう何も食べものを与え

られることはない、と感じとり、胸がむかつくおもしろいをし、恐怖に身をふるわせて、老女は孫娘にいった。

「この家をはなれ、食物のあるもっとよい場所を探しましょう。」

二人は緑の村を通り、歩いていったが、誰も二人を招き入れなかった。飢饉はおそるべき有様でした。二人は絶壁の上によじのぼった。盲目の老女は孫娘に海に飛び込もう、と告げた。〔二人は海にとび込んだ。〕老女はかめに変わり、孫娘はさめに変わった。家族の者たちは二人を探した。が、成功しなかった。最後の手段として、かれらは絶壁の上によじのぼり、老女と孫娘の名をよび、歌を誦し、招こうとした。

そして、そのときからして、訪問者たちがそこにくるときにはいつでも、村人たちは歌を誦しようとする。すると、かめとさめが姿をあらわす。この伝説は、かれらが現われ出ることによって、いきいきと保たれている。

### ③——日をつくる太陽と月（そして年）

#### をつくる月。

太陽は一日の通例の時刻係 timekeeper である。夜は三つの部分に分かれる。真夜中、一番鶏、二番鶏。それから太陽が現われる。日の出、ハーフウェイまでの上昇、頭上に直立。そして最後に日没。かれら（サモア人たちは考えた、真紅の太陽は、大海の中に没入し、そこを通りぬけて、翌朝、反対側に出てくるのだ、と。また太陽が沈みいくとき水平線で波にぶつかる時、波の動揺は大へんなものだろうとおもわれていた。……他人を呪うのに、海に沈むこととか、太陽が頭上に燃えたぎりながら落ちることを考えるのは最大の呪いとされた。

月は一年の時を定める役 the timekeeper of the year を果たす者である。1年は12のルーナによって月に分けられた。夫々の月はすべての部族に共通に使われる名前によって知ら

れていた（若干の例外はあったが）。いわゆる閏の日は、容易に挿入され、それによって12の月の名前の一様性が保たれた。

1月。Ufu va mua. 最初のヤム yam〔熱帯産のいもの一種〕掘りの月。こういわれるのは栽培されたものが熟する前に野生のヤムを掘ることから、また早い時期のヤム掘りのことからである。

2月。Toe utu va. 再度の掘り起し。これはヤム作物から出た名である。この名称はまた嵐を巻きおこす風による一層の掘り起しとして説明される。

3月。Fauafu. 枯れ凋みの月。これはヤムの蔓や、その他の植物が枯れ凋むことに由来する。枯れた色は貝殻のような色になる。

また、Taafanua という別名もある。その意味は土地をぶらぶらさまよい歩くこと。これはこの月に崇拜される神の名でもある。

4月。Lo. この時期、豊富な群れをなしてやってくる小さな魚の名に由来する。

別名、Fanonga. これは破壊という意あり。

5月。Aunumi. 押し潰された茎。この時期ヤムの茎が押し潰され、粉々にされた状態に由来する。また、この時期、さまよい廻っていると想像される多数の悪意あるデーモンということから出た名称ともいわれる。

海の魚でさえも、この月にはデーモンにとりつかれており、いつになく凶暴になっていると想像される。

5月はしばしば不健康な月である。雨季から乾季への移りかわりの時期であり、ここからして人を押し潰してしまう病いや迷信的な奇行が起る。

6月。Oloamanu. 鳥たちが囀るという名。好みの木の芽や漿果（いちご、ぶどう、すぐりなどの実）が豊富に提供されていることをよろこんで、鳥たちの間にひろがる、いつもとちがう悦びから出た名である。目をひく緋色の明るい花が咲きはじめ、大勢の小形インコはじめ幸福な囀りっ子たち（鳥たち）をひ

きつける。

7月。Palolo mua. 後半年の最初の月。貿易風の季節。

Palolo (Palolo virides), すなわち虫(みみず)の名, これは一年のうちの3日間, 保礁(海岸線に並行するサンゴ礁)のある部分から群がり集ってくる。それを土着民たちは大へん好む。この海の虫の出現は月の周期と関係がある。下弦の3日間にのみ起るのが原則的になっている。

8月。Palolo muli. Palolo後の月。Paは破裂・突発を意味する。loloは多脂肪又は油っぽいを意味する。この虫が現われ出たときの多脂肪的又は油っぽい外観による。またかれらが捕えられた直後, ぐにやりと集められることに由来する。かれらは日の出前, 約半時間頃のみ見出される。日の出とともにかれらは消え去る。

9月。Mulifa. タロ taro, すなわち arum esculentum の茎のおわりを意味する。この月は通例になく乾燥しており, 灼きつくように熱いので, 太陽の焦がすような光線は, 最後に残る小さな切れはし以外にはタロ(イモ)の茎のほんの少ししか残さない。また-faには魚を捕えるための季節の終焉の意味もある。

10月。Lotnaga. 雨乞いという名, これはそのとき雨の神に対して特別に祈りを捧げる者ということからそうよばれるようになった。

11月。Taumafamua. 豊かさの最初の月。それは魚や他の食べものが豊かになることを意味する。それからいわゆる palolo と蠅鉤祭りがつづく。村の指導者たちの家での公けの正餐はその日の行事である。

12月。Toetaumafa. 祭りを終えること。食べものは少なくなり始める。強い季節風の時期またサイクロン(熱帯性低気圧)も荒れる。そのあとでは非常な欠乏(期)(飢餓)がある。

#### ④—ハエとミツバチ

むかしはハエとミツバチとは姉妹で, 一軒の家にいっしょに住んでいた。片方はムンブムという名で, もう一方はウウウウという名でした。

ウウウウは働き者で, 朝から夕方おそくまで働いて, 食べものない悪い時期のためにせっせと食料を集めた。ムンブムの方は将来のことは少しも考えず, いつまでも鼻歌をうたってとびまわり, いい気分で遊んでいるばかり, 食料集めなどはまるきり気にかけずにいた。ウウウウは毎日のように姉にいった、「いっしょにきてよ。もうすぐ悪い季節がきてお腹がすくのよ。その頃には蜜のある花なんか一つもなくて, 朝から晩まで雨ばかり降っているんだわ。」

それでもムンブムは, 少しも気にしないで, 妹の忠告を笑い飛ばして, 知らん顔をしていた。いざとなれば妹が食べものをくれるだろうと考えていた。—家族に一人働き者がいればいいのよ!

働き者の妹もとうとううんざりしてきた。そこで別の家に引越してそこに食料をためこむことにした。そして悪い季節になってムンブムが戸口をたたくと, 妹は姉を家に入れて追いついてしまった。

やがてなまけ者の姉は, なまけの罰としてハエに変わってしまい, 働き者の妹はミツバチになった。

#### ⑤—ワニの穴(抄記)

サファアとフアラングアナという夫婦がサモアの島にいた。二人のあいだには10人の息子がいた。その名は年の順に十, 九, 八, 七, 六, 五, 四, 三, 二, 一といった。そのあとで女の子が生れ, ジーナと名付けられた。ある時, みんなは隣の村に出かけ, その子供たちと槍投げ遊びをした。最初は藪の中へ槍を投げた。一の槍がいちばん遠くまでとんだ。次は浜辺の方へ投げた。こんども一の投

げた槍がいちばん遠くまでいって、一びきのワニの穴に落ちた。

ジーナは槍のあとを追っていき、ワニに頼んだ。「どうかわたしの槍を返して！」

ワニは「はいつて自分で取っておいで」

ジーナが穴の中に入ると、うしろの岩がふさがり、ジーナは捕えられてしまった。

そこへ兄の十がきて呼んだ「ジーナ、どうしたんだ、出ておいで、もう家へ帰るよ」

ジーナは答えた。「ああお兄さん、家に帰ったら父さんと母さんに話して、わたしがこのワニにつかまえられて、穴から出られないでいるって」

十が帰ると、サフエアとファランガウナがきいた。「十や、ジーナはどうしたの？」十「あの子は九のボートに乗ってじきに帰ってくるさ。」

こんどは九がワニの家に行つて言った。「ジーナ、どうしたんだ、出ておいで、もう家へ帰るよ。」ジーナはさっきと同じように返事をした。しかし九は家に帰り、両親にきかれると十と同じように答えた。ほかの兄たちも同じだった。最後に一がいきました。ジーナの答えをきくと、一はすぐに決心して、穴の前に生えていたアダンの木に登り、空飛ぶ犬のような声を出した。ルク、ルク、ルク……。そしてアダンの実をどっさりちぎると、穴の入口に投げ落とした。

ジーナはその実がバラバラと落ちる音をきくとワニにいった。「ワニさん、穴をちょっとあけて、きつとアダンの実が外にちらばっているわ。わたしを外に出して。あなたにきれいな首飾りをこしらえてあげるから。」

ワニ「でもお前はきつと逃げるんだろ？」

「逃げるなんて考えてないわ。でも心配なら縄でわたしの足をしばっておいたら。」

ワニは納得してジーナの足をしばり外に出した。

ジーナ「わたしが実をぜんぶ集めるまで待っててね。」

兄の一がすぐにやってきて、ジーナの縄をほどくと、それをアダンの木に結びつけた。そして二人はいそいで逃げた。

ジーナが帰ってこないのを見て、ワニは縄を引っぱって「ジーナ！」と呼んだ。するとアダンの葉が、みんなで「おお、おお、おお、オホホ！」と叫んだ。

「よし、すぐにおまえの足を引っぱりこんでやるからな。だが、どうも外には大ぜい人がいるらしいぞ。」ワニはこういって、力いっぱい縄をひいた。そのためとうとうアダンの木は倒れ、たおれたひょうしに枝が穴につきささり、ワニを殺してしまった。

ジーナと一兄は両親の家に帰って、いままでのことを残らず話した。サフエアとファランガウナは、それをきいて、ほかの子供たち全員にいった。「わかった。お前たちは妹のジーナを愛していないんだ。どうもわたしたちが、子供を十から数えはじめたのはよくなかった。これからは、一から数えはじめることにする。」

× × ×

#### 上記の出典——

①「ココナツ起源譚—シナとうなぎ—」, ②「かめとさめ」は、Joan Galea'l Holland : Samoan—for the Visitor, 1986 (American Samoa) (J. G. オランド「サモア案内記」)

③「太陽と月による時のきまり」は Georg. Turner : Samoa—A Hundred Years Ago and Long Before—, 1884, 1986<sup>®</sup>(London) (G. ターナー : 「サモア—100年余の昔からの—」)

④「ハエとミツバチ」は、Lisa Tetzner : Die Märchen der Völker, 1961 (L. テツナ—「諸民族のメルヘン」)

⑤「ワニの穴」は、Paul Hambruch : Südseemärchen, 1921 (P. ハムブルッフ「南海のメルヘン」)

①②収録の「サモア案内記」は小冊子であるが、Legendsとして、ほかに、Taemā and Tilafaigā, Fagasā, The forbidden Bay,

Camel Rock (MAA KAMELA), Fatu Fuji, Two Lovers, UTUMEA, The Fisherman who couldn't make up his mind, Sadie Thompsan's Former Boarding House, The Old Rainmaker, を含んでいる。④⑤は山室静編著「新篇世界むかし話集10, アメリカ・オセアニア篇」(教養文庫/社会思想社), 1977からの再録である。数多くのなかから, 上記5つにしたのは, 今回の旅での私の肌感覚による。

### Ⅲ サモア人はどこからきたか, そしてサモアの記紀時代はいつ頃であったか

カントが「人類史の臆測的起源」を, ゲーテが自伝(「詩と真実」の第一部)のなかで「人類史の初まり」を叙述したとき, 典拠として下敷きとしたのは, とともに「旧約聖書」の「創世記」であった。それらはともに含蓄深い人類史の考察であるが, こんにちわれわれは, 人類の誕生を紀元前4004年前の「エデンの園」のできごととみずに350万年前アフリカ・オールドバイの谿谷のできごととみる作業仮説を共有している。

オールドバイ谿谷で直立歩行をはじめた人類はアフリカの地を北に向い, やがて一支脈はヨーロッパへ, 別支脈は近東からアジアへのみをとる。19世紀以降次々と記録された遺骨発掘地点が示すように。そして100万年前頃, シナ大陸北東部である種の飛躍をとげる。モンゴリアンと総称されるに至った人類の一大集団は, さらに広地域への大移動期に入る。トナカイを追って北上した一群は, やがて環北極海民族を多岐的に形成する。一方, 当時“陸橋”をなした現在のベーリング海峡をこえて北アメリカに入り, 縦走南下し, 各地に定住民を残しつつ, 最終的には南アメリカに達したと考えられる。おそらくはアメリカン・インディアン, インカ・マヤ両民族の大祖の大祖もこのなかに含まれていたであろう。

人類の一元的起源説を貫けば, オーストラリ

ヤをはじめ, 数多い南半球諸島の人類も, 上記移動主軸から海路, 各現地へ到着したと考えられる。それがアジア側からか南アメリカ側からかは問題の残るところであるが, イースター島を例にとれば, こんにちアジア側説の方が有力である。サモア人もアジア側から到来したとみるべきか。

さてサモアに到着したサモア人の歴史はどう展開したか。サモア社会はいかなる言語や文字を使っていたか, その文法はどうであったか, これらは残念ながら目下私の知的射程外である。

比較的新しいサモア史の出来事としてトンガ・サモア戦争がある。1250年頃に始まり, ほぼ100年つづいた。トンガは当時(10世紀~15世紀), サモアのみならず, フィジーその他の諸島にも遠征を行った強力な武力国家であった。トンガの優勢はうごかしがたかった。が, 抗争は同時に交流をも生む。サモア人はトンガやフィジーを知ること, サモア人の自意識も高まったと想像される。それはサモアの「記紀」神話, 伝説, 民話或いは日常生活訓などの温床となつたであろう。

その後サモア史はヨーロッパからの渡航者, ついで宣教師たちによる記録の形で記述される。

オランダ人航海士タスマンによる1642/43頃のニュージーランド, フィジー, トンガの発見におくれること約80年, 1722年オランダ人航海士ロッゲフェーンが三船隊をひきいてサモア島に来島。また1768年にフランス人航海士ブーゲンビル, 1787年同じくラ・ペローズ, 来島。そして19世紀初頭にはイギリス宣教師の地盤が固まる。「サモアの歴史」(History of Samoa, 1979, Apia)を書いたヘンリー Fred Henryが1830年を重要な年といっているのはこの見地からである。

宣教師とともに捕鯨やあざらし猟の船の寄港も多くなる。経済, 軍事上からもサモアは欧米列強の争奪場の色あいを深め, 1899年サモア諸島はついにドイツ領, アメリカ領に2分された。西経171°を境界線とし, 西がドイツ領, 東が

アメリカ領である。20世紀をサモアは植民地として迎えたことになる。

しかしやがて西サモアとなる西側ドイツ領は第一次大戦後ニュージーランドの委任統治領にかわる。ついで第2次大戦後、同国の信託統治になる。ついでその配下を脱して、ポリネシア人最初の独立国家となるのはそれから17年目、1962年1月1日である。

以下、西サモアの現状を記す文章を引用する。(「世界各国要覧」1988<sup>④</sup>、東京書籍、P.122)。

西サモアは立憲君主国で、元首は大酋長の家系を引くタヌマフィリ2世である。内閣は、立法議会が選出する首相と、8名の閣僚より構成され、他方、立法議会は1院制で47名の議員よりなり、このうち45名は酋長(マタイ)の称号を持つ者となっている。

……………

社会的特徴は、氏族制を母体とした酋長(マタイ)制度である。「村の世話役」ともいえるマタイは、平均100名程度の部落を支配し、日常生活において部下のめんどうをみる代わりに、経済的利益を優先的に享受できる立場にある。同時に政治的にも大きな影響力を持つ。このため中央政府の指令が末端地域まで浸透しにくいといった弊害が生じている。また、このマタイ制度では個人の独立性がほとんど認められないためか、サモアには住居様式(柱ばかりで壁がない開放的なもの)にかぎらず、良いにせよ悪いにせよ、古い伝統的文化が比較的残っている。

× × ×

そしてわれわれプロジェクト研Bが、西サモア代表部より次の如き招聘状をえて、西サモアに赴いたのは、1988年3月であった。

「貴下が貴大学付属、生活科学研究所の研究プロジェクト「寓話、童話、民話、伝説、説話等の系譜的総合的研究」の一環として、太平洋圏の調査・研究を企画され、西サモア訪問を希望しておられることをうかがい、心から歓迎の意を表するものであります。

西サモア政府としても、文化的学術的な立場

から、西サモアの総合的学術研究に深い関心を抱いており、貴プロジェクトの成果が多大なることを期待するものです。」

#### IV

イギリスの宣教師たちは、サモアで、精力的に住民の教導にあたった。諸事を蒐集し著作をなした。前出でもあるG.ターナーの本を例としてあげる。

Samoa—A Hundred Years Ago and Long Before, 1884

Samoa—Nineteen Years in Polynesia, 1861  
前者の細目。

(1)サモア諸島の位置。初期の訪問者、伝統の起り

(2)サモア——その名称の起源

(3)来世観——宗教など

(4)神信仰——戦争、一般的な村の神々

(5)下位の神、家の神

(6)人々——幼児と子供

(7)成人と老年期

(8)食物—料理—飲酒

(9)衣服

(10)娯楽

(11)生の終り、長寿、病気など

(12)死と埋葬

(13)家屋

(14)カヌー(丸木舟)

(15)手工業による諸々の品物

(16)政府と法則

(17)戦争

(18)天界と天体

(19)火の起源、及び他の物語

(20)島々の名称—移動についての説明など

(21)政治的区分——ウボル(島)

(22)政治的区分——サヴァイ(島)

宣教師たちによって英語がもたらされ、英語の26文字アルファベットから、14文字が転用さ

れて、サモア語アルファベットができた。

A E I O U F G L M N P S T V

原サモア語 (Ursamoan) の文字は知る由もないが、14文字アルファベットで書き記されたサモア語文の背後に、ぼんやりうかび上ってくる気もする。——前出、G. J. オーランド「サモア案内記」及びR. W. アラーダイス「現代サモア語簡明辞典 (R. W. Allardice: A Simplified Dictionary of Modern Samoan, 1985 (Polynesian Press, Auckland, 参照))

この14文字アルファベットによって、サモア人たちは何を先ず書き記したのであろうか。これも“知的射程”外にあるが、ひとまず、伝承のことわざを古層に属するものとして、いくつかとり上げてみたい (G. B. ミルナー Samoan Dictionary, 1966による)。

●“E ati afi ae no masi”

He came to fetch fire but actually wanted preserved breadfruit.

かれは火を貰いにきたが、しかし実際は保存食のパンの樹の実を欲していたのだ (口先と腹のうちは別、ということ)。

●“E fa asisi fua i moa ae manio i le pua'a”

He merely asked for chickens but hoped for a pig.

かれは鶏肉を求めてきたが本当は豚 (肉) を希望していた。—— (前記と類似的)

●“Ta te inu i Malie, ta le malie”

A play on words——Malie, a village, and “malie”, satisfied,

Expresses discontent when expectations are not realised.

言葉の遊び——Malie は村, malie は“満足した”の意。

予想が実現されないとき、不満が表に出る。

●“Ua mū le lima, tapa le i'ofi”

After the hand is burnt one asks for the tongs.

手がやけどしてから、人は火挟みを求める。

●“Se'i lua'i lou le 'ulu taumamao”

First pick the highest breadfruit.

i.e. Do the hardest task first.

先ず最初にパンの樹の実から摘みとれ。すなわち、一番困難な仕事からとりかかれ。

●“Ua mū vai ae suamalie 'ava”

Water is salty but kava is sweet—an appreciation of kava.

水は塩っぽく、カバ (酒) は良味なり——カバ (酒) は高く評価される。

カバ (酒) が出てきたところで引用を打切る。これはG. B. ミルナーが1000~1500例を蒐集したうちの50選を冒頭から掲げてきた。諺 (Proverb, Alagā'upu) はその社会の基層文化、慣習倫理を実によく表現する。諺の全貌はそれだけでも一つの大きな研究対象となる。当然、諺を寓話との関連も密である。近刊書に、——

Pack Carnes: Proverbia in Fabula. Essays on the Relationship of the Fable and the Proverb. (Sprichwörterforschung. Vol. 10. 1988) あり。

——むすび——

一本の糸のように手ぐられた「海上の道」がおもいがけずサモアを日本に引き寄せるかにもえた。サモアにしばしとどまり、サモアの記述に携わったわれわれは、この糸の強さをどのように感じとったらよいのか。

絹の如くか、はたまた蜘蛛の糸の如くか、あるいは太縄の如くおもいなしてよいものか。

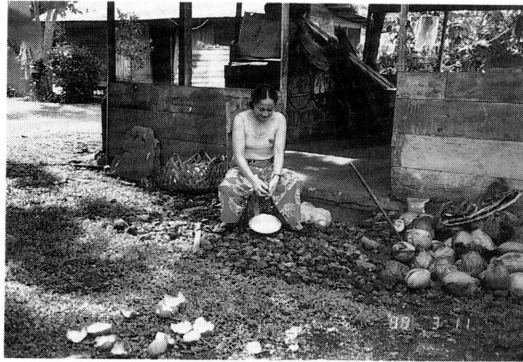
われわれはこのようにおもい迷いながらも、この糸が切れることのないことを予感する。いまはそれだけである。それで充分である (“Es ist genug!”)。

冒頭「柳田の文学的仮設が……未来には科学的仮設そのものであることが明らかとなる」という意の文章を引用した。目下はその未来がまだきていないというだけのことなのだとおもう。



付：写真説明

▲タロイモ料理——調理経過（蒸し料理，スタートから約1時間かかる）



①タロイモを洗う。皮に若干手をかける。



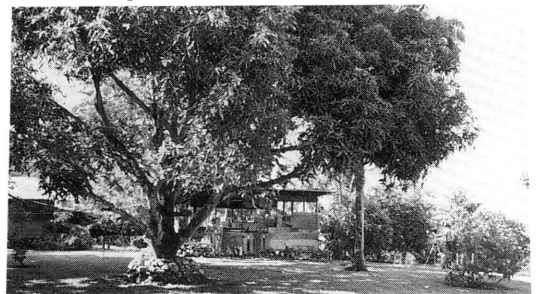
②石を焼いて、石焼きの準備——  
それに薪も併用する。



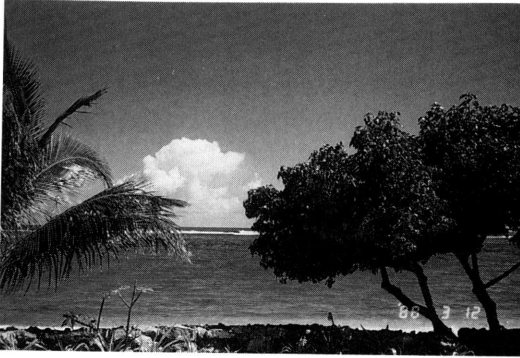
③薪に火が移り、くすぶり始めている。  
いつもは女性一人ですが、この  
ときはこの男性が手伝った。  
この男性は talking chief の一人という。  
昔は家事をやらないのが普通だとされた。こ  
のときかれはわれわれの滞在中運転手をつと  
め、その時間帯内ということもあったのだろ  
う。もっともかれは自分の家でも手伝うといっ  
ていたが。



④このときの材料は、タロイモのほか、とうも  
ろこし、缶詰めのミニウイナーソーセージ。  
（日本の女性がこの家の一階を借りていて、  
われわれを招待しての宴であった。）



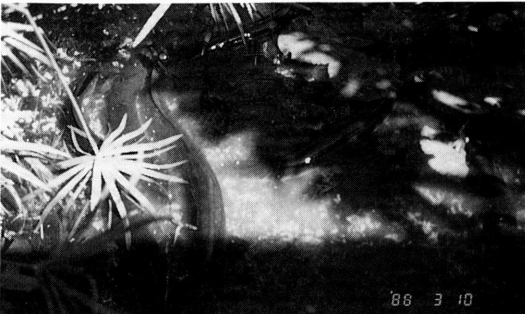
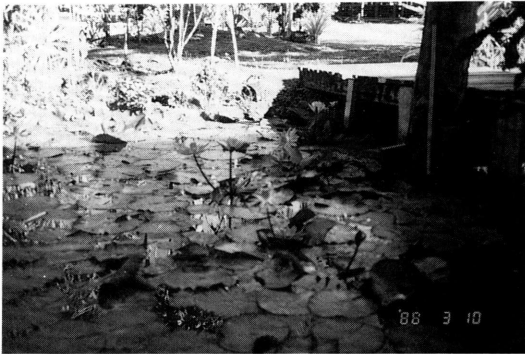
⑤別棟の食事処。



▲ 圍繞する海

碧い海に囲まれた Samoa の諸島  
ゴールデン・パラダイス  
パパスビーチ  
えとせとら、えとせとら——

海＝大洋をはなれてサモアは語れない。  
南太平洋上の、多島海を演出するサモア諸島。  
かつて、エーゲ海の多島海から「古典文化」  
は起った。  
南太平洋の多島海文化がいかなる性格・独自  
性をもちうるか、その可能性の幅は大きい。



▲ タロイモ生育地 ↑

▲ 蓮の池とうなぎ

ホテル・ツシタラ Hotel Tusitala のレストラ  
ン棟の脇に池がある。(Tusitala とは writer  
novelist, すなわち作家、小説家の意。「宝島」  
の作者スチーブンスンが西サモアに住みついた  
ことを多として、ホテル名に Tusitala が生れた。  
レストラン棟の内部にはかれの肖像画がかけら  
れている。)

朝、水蓮が美しい花を咲かせる。蓮の葉は水  
面をおおいつくすかにみえ、その上で花は泰然  
と美を競う。しかしボーイが食卓の皿に残った  
ものを厨房にもち戻る代りに、池の端に立ち寄  
り、たっぷりと投げ込んでやる。すると、大き  
なうなぎが、水面に波を立てて、数尾、立ちど  
ころに集ってくる。その動作は、日本の鯉でみ  
る風情とちがって、大へんにゆったりしている。  
その大きさ、1メートルを優に超えている。1  
メートル半から2メートル近くまでなる可能性  
がある。そして「ココナツ起源譚」(「シナとう  
なぎ」)の話を知った上では、何か濃密な情感  
をからだのうちに感じつつ眺め入ることになる。

一見「蛇」をおもわせることから、ボーイに  
「蛇」はいるのか、ときいてみる。答えは「ノ  
ー」であった。しかし「ウポラ島にはいないが  
サヴァイ島にはいるようだ」ともつけ加えた。



















▲教会

宗教：キリスト教ほぼ100%という公式データに記されてあったように、人口16万に対しては、教会の数は目立って多い。この教会はアピアApia市街地にある教会である。白い壁が陽光のもとますます白く見える。

その内部——

ヨーロッパのあちこちにあるプロテスタント・エヴァンゲリッシュ教会の内部をおもわせる簡素な作りである。ここも、ヨーロッパの教会にみられるように、いつでも、だれでも、ここへ来て、お祈りができるように、ドアはしめられていない。

**O L E P I T A U T A U**

a		e		i		o	
u		f		g		l	
m		n		p		s	
t		v		ai-ai au-au ei-ei eu-eu ia-ia ea-ea			
h		k		r			

Ato = Basket  
 Eiefane = Elephant  
 Ipu = Cup  
 Ofu = Dress  
 Uati = Clock  
 Fagu = Bottle  
 Gats = Snake  
 Logo = Bell  
 Moe = Chicken  
 Nofoa = Chair  
 Pusi = Cat  
 Solofanua = Horse  
 Ta'avale = Car  
 Va'a = Boat  
 .....

Herota = Herold  
 Kirikiti = Cricket  
 Rapiti = Ra'uit

**a e i o u f g l m n p s t v · h k r**  
**i 2 3 4 5 6 7 8 9 10**

▲サモア語

サモア社会はもはや無文字社会ではない。サモアン・アルファベット、14文字。

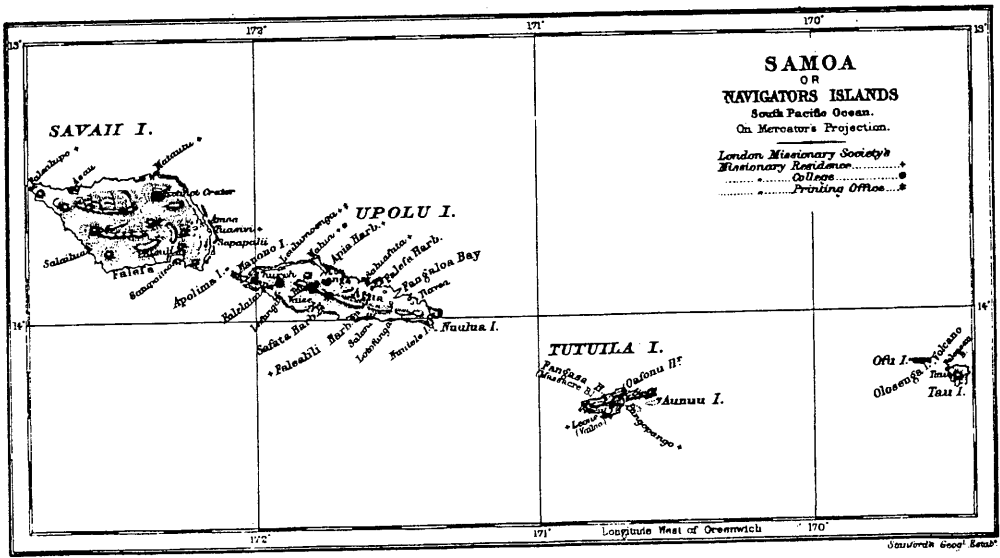
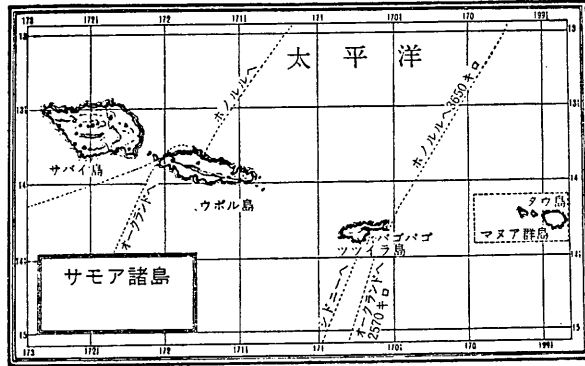
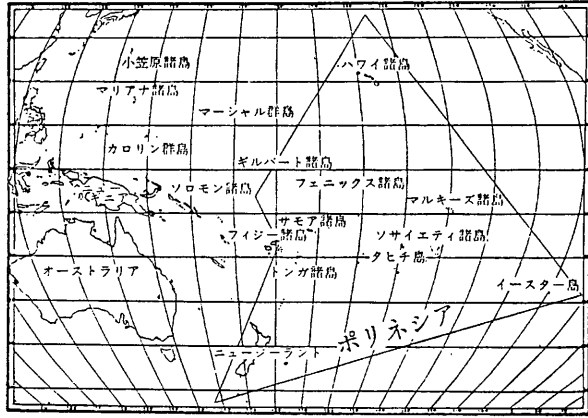
A E I O U F G L M N P S T V  
a e i o u f g l m n p s t v

ヨーロッパからのキリスト教宣教師たちが、アルファベットを教え、サモア人は14字をものにして、サモア語のアルファベットとした。

Ursamoan (原サモア語の文字はどんなものであったのだろうか?)

サモア諸島の位置

- ・サモア地図 a, b, c



(Samoa.)

London: Macmillan & Co.

## 「アリとキリギリス」再考

〔第Ⅲ報—その2—〕

馬場 喜敬, 中地万里子  
川合 貞子, 加藤 優子

### I

a) イソップの姿は今日なおしげく巷間を徘徊している。フランスの社会学者マフェゾリは「ディオニソスの影」[*L'ombre de Dionysos*, 1983]という本を書いたが、この有名なディオニソスに比しても、イソップの影はひけをとるものではない。この3~4年の現象をおもいうかべただけでも、先ず、

①NHK Ch. 1の夜11時台Lタイムのときインターメッツオのように「イソップ寓話」シリーズが流れた。常時みていたわけではないが、「旅人とプラタナスの樹」など意外に新鮮であったことが記憶に新しい。

②民放テレビでは「ウサギとカメ」「北風と太陽」「二人の旅人と熊」なども単発でみた記憶がある。

③「アリとキリギリス」ではフランスの某テレビ局のアニメーションが映像詩として美事であった。これは全く原作(=祖形)をはなれていた。アリとキリギリスはアモール(恋愛)におちいる。がまもなくキリギリスは病いにかかる。アリはその病いを癒す薬草を求めて舟のって旅路に出る。けれどもアリがもどってきたときにはキリギリスはすでに死にたえていた。アリはキリギリスの亡きがらに涙して倒れ俯す。——これはもはやオペラ「ラ・ボエーム」の終幕である!

さてこのような異色の「アリとキリギリス」は別として、昔ながらの「アリとキリギリス」にもどると、それはやはり、イソップの中でもっともポピュラーなものとおもわれる。いうなれば、歌舞伎のなかでの忠臣蔵、オペラでの

カルメン、日本の新劇での夕鶴といったところであろうか。イソップといえば「アリとキリギリス」が真先に口をついて出るであろうし、真先でなくともこれをおとす人は稀れである。

b) 本稿はその「アリとキリギリス」について、アンケートを使つての考察である。

アンケートは日本と西ドイツにおいて行った。日本——本学(狭山・板橋)の一年在生約200名、文学部と家政学部生と短大保育科。西ドイツ——München及びAugusburgの学生、ギムナジウム生、約100名。大学生はJapanologie(日本学)専攻者を主とする。

アンケート項目及びその集計結果は別掲の通り(項目は西ドイツでは日本版よりやや簡略化した)。

但しここで前以て注意すべきことがある。「アリとキリギリス」は大へんはやりのテーマといったが、それだけに変容も複雑なのである。そもそもイソップ寓話の祖形とみなされるBabrius(ギリシャ語版)、Phaedrus(ラテン語版)には、ともに「アリとキリギリス」はない。内容からみて「アリとセミ」がその祖形とおもわれる。

Babrius 140 (希英対訳英文)

When the sluggard went to the ant.

(なまけ者がアリのところに行ったとき)

この「なまけ者」とは cicade (セミ)のことである。

Phaedrus では「アリとセミ」でもなく、さらにその祖形ともいふべき Ant and Beetle (「アリと甲虫」)が、それも本文でなく付録(Appendix) 112に掲げられている。

「アリとセミ」がいつ頃から「アリとキリギリス」になったか。先ずドイツの例でいうと、シュタインヘーベル Steinhöwel (1477/78)のラ

テン語ドイツ語対訳本は「アリとセミ」Die Ameise und die Zicade であることは、上述のことから当然視されるが、こんにちのドイツ人が親しんでいるとおもわれる絵本——そしてこれをアンケートに添付した——は Grille u. Ameise である。但し、ここでまた問題が生ずる。Grille をキリギリスとしてよいかどうか。現行の独和辞書をみれば大半はその訳語はコオロギである。「コオロギとアリ」、われわれにとってはまことになじめない組み合わせである。そしておもうにドイツ人もわれわれと同じように、Grille でキリギリスを表象したのではなからうか。さらにいえば、鳴く虫の総称として Grille を考えたのではなからうか。リンネ C. Linne 的学名によって厳密に種を特定して考えたのではなかったであろう、とおもわれる。(参考までに辞書の訳語の Auszug を作って別掲とした。)

ともかく絵本での「アリとキリギリス」流行がこんにちのドイツに一応みてとれる、としたい。

日本の場合、前述の如く、こんにちでは「アリとキリギリス」がもっぱら流通しているかにもえたが、活字の世界でみると、必ずしもそうでないことがわかる。

岩波少年文庫「イソップのお話」では「アリとセミ」である。岩波文庫版が、Chambry 版を底本にして「アリとセミ」であることに準じているからのことであろうが、絵になっていて、冬のセミが描かれるのは何か不自然でそぐわない。この Chambry 版尊重は、渡辺和雄訳「イソップ寓話集」(I, II 巻)にも及んでいて、活字の世界の「アリとセミ」の優勢はテレビと好対照である。

c) 内容について一言。ドイツの2例は結論部へ急行している。

導入部ですでに冬である。そしてアリが巣から穀粒を出して日にあて、かわかしている、と

いう記述が共通している。これは旧約聖書中の若干の記述との関連で大へん注目される。Messor 属のアリにこういう習性があるかどうか。少なくとも日本の Messor 属のアリについてこのような報告はないが、ここでは生態観察の真偽が問題ではなく、上述の関連が重要視されるのである。キリギリスに「芸術家の誇り」(ハーゲルシュタンゲ)を持たせた点は、星新一の「未来イソップ」の「アリとキリギリス」の方向に通ずる。

日本の二つの「アリとキリギリス」は、ともに夏からはじまる。こんにちの再話者たちにとって、日本の暑い夏のさなかのアリたちの猛烈な働きぶりは、ひところの猛烈サラリーマン並みに、ひとこと感懐なかるべし、といったところか。さて、この二つの話の結末はちがっている。一つは祖形、そしてまたドイツの2話と同じく、キリギリスを冷たく突き放す話であり、他は、アリが同情心をもち、食べものを与え、且つ訓告をのべる、すなわち、この話の教訓としては4例同じ、ということになる。



切手の図柄になった「アリとキリギリス」

## アンケート 「アリとキリギリス」

(日本語版)

氏名	性別	M/F	生年月日	職業
----	----	-----	------	----

- あなたはこの寓話を知っていますか？  
A 知っている B 知らない  
—Aと答えた人へ  
1) いつ初めて知りましたか？  
{幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・  
それ以降 歳位}  
2) 何で知りましたか？  
{両親の話・先生の話・絵本・ラジオ・  
テレビ・その他 ( )}
- 「アリとキリギリス」を読んで……  
1) この話をおもしろいと思いましたか？  
A はい B いいえ  
2) 教訓としてすぐれていると思いましたか？  
A はい B いいえ  
3) この話は現実的であると思いましたか？  
A はい B いいえ
- 「アリとキリギリス」について……  
1) 「アリとキリギリス」ではなく「アリとセミ」  
として知った。  
2) 「アリとキリギリス」ではなく「アリとハエ」  
について知っている。  
3) 「アリとキリギリス」ではなく「アリとハト」  
について知っている。
- 「アリとキリギリス」あるいは前記3つの話で思い  
出す作者は誰ですか？  
(1)アエソホス(イソップ) (2)ラ・フォンテーヌ  
(3)レッシング (4)マルティン・ルター (5)アンデル  
セン (6)グリム(兄弟) (7)ゲーテ (8)シェイク  
スピア (9)夏目漱石 (10)森鷗外 (11)小林一茶  
(12)ハーフィーズ
- 「下記の中で知っているものに○をつけて下さい。  
(1)都会のねずみと田舎のねずみ (2)二人の旅人と  
熊 (3)オオカミと少年 (4)蛙と牛 (5)ウサギとカ  
メ (6)海綿を運ぶロバ (7)肉をくわえた犬 (8)キ  
ツネとブドウの房 (9)北風と太陽 (10)ライオンと  
恩返しのネズミ (11)旅人たちとプラタナス (12)蜜  
蜂とゼウス
- あなたはどの宗教をえらびますか？  
(1)キリスト教 (2)ヒンズー教 (3)儒教 (4)道教  
(5)仏教 (6)ユダヤ教 (7)イスラム教 (8)ゾロアス  
ター教 (9)アミニズム (10)神道 (11)その他
- あなたは「アリとキリギリス」の話し(教訓)と  
自分の宗教の教えとが調和すると思いますか？  
A 調和する  
B 調和しない(一従って評価しない)
- 「アリとキリギリス」について言われていること  
で、真相と思われるものに○をつけて下さい。  
(1)アエソボスがデルフォイの神殿で、権力を楯に  
ぶらぶらしているアテナイ人をキリギリスに見  
立てて、アリのごとく働く労働者の声をアリに  
託して語った。  
(2)アリストテレスが日常の教訓として倫理学の中  
にとり入れた。  
(3)教育ママが子供によく勉強するようにと考え出  
した。  
(4)郵便局や銀行が貯金を奨励するために思いつい  
た。  
(5)芸術家(キリギリス)の方が美しく潔い生き方  
だという反語。  
(6)企業(会社)が社員を働かすために案出した。  
(7)起源はわからないが、古くからあった動物寓話  
がギリシャの各地で語られるようになり、「ア  
リとキリギリス」もその一つである。
- 次のお話しの中には「イソップ」以外のものも入っ  
ています。イソップと思うものだけに○をつけな  
さい。  
(1)狼と七匹の子山羊 (2)カチカチ山 (3)花咲爺さ  
ん (4)熊と狐 (5)ハムスターとアリ (6)長靴をは  
いた牡猫 (7)ハーメルンの笛吹き男 (8)獅子と恩  
返しのねずみ (9)王様と耳 (10)風の又三郎  
(11)蚊と獅子 (12)美女と野獣

質問項目 合計 (複数回答有り)

I	A		180	III	1	7		10	64	IX	無	28
	B		3		2	1		11	3		1	80
	無		7		3	15		12	2		2	4
	(1)	幼	59		無	167		無	0		3	3
		小	1	IV	1	150	VI	1	42	4	19	
		中	0		2	0		2	3	5	21	
		高	0		3	0		3	1	6	62	
		大	0		4	0		4	0	7	74	
		他	0		5	37		5	79	8	53	
		無	7		6	45		6	0	9	100	
	(2)	親	13		7	1		7	0	10	2	
		先	24		8	1		8	2	11	12	
		絵	130		9	0		9	6	12	8	
		ラ	6		10	0		10	8	無	12	
		テ	23	11	2	11	24					
		他	5	12	0	無	37					
		無	6	無	10	VII	A			93		
II	(1)	A	152	V	1	136		B	49			
		B	32		2	23		無	48			
		無	6		3	160		VIII	1	79		
	(2)	A	164		4	62	2	25				
		B	17		5	186	3	4				
		無	9		6	36	4	3				
	(3)	A	135		7	109	5	7				
		B	25		8	111	6	2				
		無	10		9	158	7	57				



## アンケート「アリとキリギリス」

(ドイツ語版)

Name, Vorname:		Geburtsdag:	
<input type="checkbox"/> männlich <input type="checkbox"/> weiblich	Nationalität:	in Deutschland seit:	

## 《Die Grille und die Ameise》

I Kennen Sie diese Erzählung schon? (Bitte einmal  ankreuzen!)

- ja  
 ja, aber als "Die Zirpe/Zikade und die Ameise"  
 ja, aber als "die Fliege und die Ameise"  
 ja, aber als "die Taube und die Ameise"  
 nein.

Falls ja bzw. ja, aber...:

① Wann und wo haben Sie sie kennengelernt? (als Kleinkind, als Schüler der Grundschule, ... bzw. in Deutschland, im Ausland/Heimatland):

② Wer hat sie Ihnen zum ersten Mal erzählt? (z.B. Vater, Mutter, Opa, ..., Lehrer, Freund(in), (Bilder-)Buch, Radio/Fernsehen ... ich erinnere mich nicht (genau).):

II a) Finden Sie die Fabel interessant?

- ja  nein

♣ Warum? \_\_\_\_\_

b) Finden Sie die Fabel lehrreich?

- ja  nein

♣ Warum? \_\_\_\_\_

c) Finden Sie die Fabel realitätsnah?

- ja  nein

♣ Warum? \_\_\_\_\_

III An welchen Autor/welche Autoren erinnert Sie die Fabel?

Sie können beliebig viel ankreuzen.

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> Aesop          | <input type="checkbox"/> Goethe         |
| <input type="checkbox"/> La Fontaine    | <input type="checkbox"/> Shakespeare    |
| <input type="checkbox"/> Lessing        | <input type="checkbox"/> Natsume Sōseki |
| <input type="checkbox"/> Martin Luther  | <input type="checkbox"/> Mori Ogai      |
| <input type="checkbox"/> Andersen       | <input type="checkbox"/> Kobayashi Issa |
| <input type="checkbox"/> Gebrüder Grimm | <input type="checkbox"/> Herfieds       |

IV Die Religion:

a) Zu welcher Religion bekennen Sie sich, bzw. welcher Religion stehen Sie geistig am nächsten?

b) Meinen Sie, daß die Fabel (die Lehre) von "Die Grille und die Ameise" mit Ihrer religiösen Auffassung in Einklang steht?

V Warum ist diese Fabel so bekannt/beliebt? (beliebig viel ankreuzen!)

- Aesop verglich die Athener mit der Grille, die Sklaven mit der Ameise.  
 Aristoteles nahm die Fabel als Alltagsweisheit in seine Ethik auf.  
 Erziehungsbesessene Mütter haben ihren Kindern die Fabel weite rezählt.  
 Man hat die fabel ausgedacht, um das Volk zum fleiß und zur Sparsamkeit anzuregen.  
 Ironischer Ausdruck dafür, daß das Künstlerleben (die Grille) schöner und unbefangener sei.  
 sonstige: \_\_\_\_\_

No.1 — 71

Anna-Gymnasium/Augsburg +同ギムナジウム griechische Abteilung (ギリシャ教育制度のカリキュラム)

♫ ♫

♫ ♫

No	性別	年齢	国籍	I	I ①	I ②	II ③	II ④	II ⑤	理由	III	IV ⑥	IV ⑦	V	I 変形	註など
12	1	15	1	1	3	2	3	1	1		a	12		a		
4	1	15	1	1	3	2	3	1	1		a	12	1	a		
14	1	17	1	1	3	2	1	1	2		cfg	10	2	cde		
34	2	17	1	1	2	3	1	1	1		b	12	2	cd		
52	2	16	1	1	3	2	1	1	1		ad	12	2	abe		
3	1	16	1	1	2	2	2	1	2		a	12	3	ad	1a	
<hr/>																
17	1	16	1	1	3	2	1	1	1		a	30	1	d		Rückseite Zeichnungen
<hr/>																
15	1	16	1	2												
18	1	16	1	2												
50	2	16	1	2												
53	2	15	1	2												
54	2	16	1	2												
19	1	16	1	2								12				
51	2	15	1	2							a	12				
<hr/>																
13	1	17	1	2								30				
<hr/>																
58	2	16	2	1	1	4	2	1	1		a			d		I② durch Fernsehen
23	1	16	2	1	1	4	1	1	1		aefk	11		a		A - 1
32	1	15	2	1	2	2	1	1	1		a	11		ac		
67	2	17	2	1	2	2	1	1	1		a	11		acd		
70	2	18	2	1	1	1	1	1	1		af	11		bd		
1	1	16	2	1	2	1	1	1	1		a	11	1	bc	f	
2	2	18	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	c	f	
6	1	16	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	cd		
7	1	16	2	1	2	2	1	2	1		a	11	1	ac		
8	1	12	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	ad		
20	1	16	2	1	2		1	1	2		a	11	1	abd	f	
25	1	18	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	d		
31	1	18	2	1	2		1	1	1		aef	11	1	cd	f	
33	1	17	2	1	1	5	2	1	1		a	11	1	cd		
36	2	15	2	1	2	2	1	1	1		adf	11	1	c		
38	2	15	2	1	2	4	2	1	1		aef	11	1	c	f	I② durch Fernsehen
40	2	15	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	d		
41	2	15	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	d		IIb:Ohne Fleiß kein Pr.
42	2	15	2	1	2	4	1	1	1		af	11	1	cd	f	I② durch Fernsehen
46	2	15	2	1	2	2	1	1	2		a	11	1	c		
48	2	16	2	1	2	2	1	1	1		a	11	1	cd		
49	2	16	2	1	1	1	1	1	1		a	11	1	cd		

「アリとキリギリス」再考

59	2	16	2	1	1	1	1	1	1	a	11	1	cd	
60	2	15	2	1	2	5	1	1	1	a	11	1	ac	
68	2	18	2	1	2	2	2	1	1	abc	11	1	bd	A-4
71	2	15	2	1	2	2	1	1	1	a	11	1	cd	
10	1	15	2	1	1	1	1	1	1	a	11	2	cd	
26	1	16	2	1	1	1	1	1	1	a	11	2	ac	f
27	1	17	2	1	3	2	1	1	1	dfg	11	2	ac	
29	1	17	2	1	2	4	1	1	1	f	11	2	bc	I② durch Fernsehen
30	1	17	2	1	2	2	1	1	2	bk	11	2	d	V:Ohne Fleiß kein Preis
43	2	15	2	1	1	4	2	1	1	af	11	2	cd	A-5
47	2	15	2	1	1	2	2	1	1	ae	11	2	ace	f A-3
64	2	17	2	1	2	2	1	1	1	a	11	2	d	
65	2	17	2	1	2	2	1	1	1	ef	11	2	bcd	
69	2	17	2	1	1	1	1	1	1	af	11	2	ab	
9	1		2?	1	2	4	2	2		a	11		a	I② durch Fernsehen

11	1	18	2	2										
55	2	16	2	2							10			
56	2	16	2	2							10			
16	1	15	2	2							11			
22	1	16	2	2		1	1	1	a	11		ac		
35	2	15	2	2							11			
44	2	15	2	2							11			
21	1	16	2	2		1	1	1	a	11	1	c	f	

5	1	16	3	1	2	2	1	1	1	a	11	1	cd	
39	2	15	3	1	2	2	1	1	1	a	11	1	ad	
57	2	16	3	1	1	4	1	1	1	a	11	1	cd	I② durch Fernsehen
61	2	16	3	1	3	3	1	1	1	a	11	1	cd	f la
28	1	18	3	1	1	4	1	1	1	a	11	2	ace	I② durch Fernsehen
37	2	14	3	1	1	1	1	1	1	a	11	2	c	
45	2	15	3	1	1	2	1	1	1	a	11	2	ac	f A-2
62	2	17	3	1	2	2	1	1	1	a	11	2	bcd	
63	2	16	3	1	2	3	1	1	2	a	11	2	cd	
66	2	16	3	1	2	2	1	1	1	cef	11	2	ab	
24	1	16	3	1	2	2	1	1	1	a	11	3	ad	

A-1 : Personaldaten gestrichen (steht "Datenschutz"), konnte doch entziffert werden.: I②Fernseh-  
sendung "Die Sendung mit der Maus"

A-2 : I=Vorschule/Kindergärtnerin?; V f: "Eine Bohne und noch eine Bohne, <sup>la</sup>nd der Sack ist voll."  
(gr. Sprichwort)

A-3 : I②=Kindergärtnerin? II②Hinweis auf Künstlerleben.(Vater in der DDR studiert.)

A-4 II②: "Vorsicht ist besser als Nachsicht"

A-5 I② durch Fernsehen; II②:"Ohne Fleiß kein Preis".

分類の基準: ①国籍

② I「ありとぎりぎり」を知っていますか。

③ IV②宗教は?

④ IV②あなたの宗教観と調和しますか。

No. 101 — 122 (学生・成人)

No	性別	年齢	国籍	I	I ①	I ②	II ③	II ④	II ⑤	理由	III	IV ⑥	IV ⑦	V	I 変形	Beruf
4	2	25	1	1	2	2	1	2	2	!	e	10	2	d		Stud.(J)
7	2	24	1	1	1	3	1	1	1		ab	10	2		f	Stud.(J)記述に注意
16	2	25	1	1	2	2	1	1	1	!	a	10	2	a		Stud.
17	2	20	1	1	2	3	1	2	2		bf	10	2	d		Stud.
20	1	52	1	1	4	3	1	1	1		b	10	2	a	f	Lehrer
22	2	24	1	1	1	3	1	2	2	!	a	10	2	d		St.Sprachbehindertenspäd.
2	1	22	1	1	3	2	1	2	1		abc	12		d		Student(J)
12	2	23	1	1	2	3	1	1	1		bc	12	2	d		Stud. med.
13	2	27	1	1	3	3	1	1	1		a	12	2	d		Stud. (J), Sinologie
1	1	21	1	1	2	1	1	2	2		bc	13	1	d		Student
21	2	24	1	1	2	3	1	1	1	!	a-f,	13	3	a		Stud.(J)IV⑥!
6	2	22	1	1	2	2	2	1	2	!	ab	20	2	d	f	Stud.(J)
9	1	23	1	1	2	3	1	1	2	!	a	20	2		f	Stud.(J)
3	2	25	1	1	1	3	1	1	1		ab	30		d		Stud.(J)
5	2	29	1	1	2	2	1	1	2	!	ab	30		d		Beruf: "Grille"
18	2	25	1	1	3	3	1	1	1		b	30			f	St.(J)I② d.la Fontaine
10	2	21	1	1	2	2	1	1	1		b		2	cd		
15	1	23	1	1	1	3		1			ade			d		Studienkolleg/München
11	1	25	1	2			2	1	1			10	2		f	
14	2	21	1	2			1	1	1		a	10	2	a		Stud. Chemie
19	2	22	1	2			1	1	1		ab	10	2		f	St.(J)
8	1	37	1	2			1	1		!		20		d	f	Sprachlehrer.(J)

22=Schwester von 04

05=Schwester von 03

分類の基準：① I 「ありときりぎりす」を知っていますか。

② IV③ 宗教は？

性別：1=男 2=女

年齢：そのまま

国籍：1=ドイツ 2=ギリシア、ドイツ生れないし6才未満でドイツ入国 3=ギリシア、6才以降にドイツ入国

I ①：1=ja 2=nein

I ②：1=幼少時代 2=Grundschule 在学中(6-10才) 3=Gymnasium 在学中 4=それ以降

I ③：1=家族 2=先生 3=(絵)本 4=メディア 5=友人

II ①~③：1=ja 2=nein 3=jein (どちらともいえない)

理由：興味あるものには「！」印。

III：そのまま。

IV ①：10=キリスト教 11=ギリシア正教 12=ローマ・カトリック 13=ルター派 20=哲学的世界観 30=無信仰

IV ②：1=ja 2=nein 3=jein (どちらともいえない、立場による、など)

Beruf: Stud.(J) 日文学専攻(本科・副科)の学生。

＜アリとキリギリス＞

アンケート 基準資料

日本

△岩波少年文庫 イソップのお話

河野与一編訳 1955, 1965<sup>④</sup>

Halm版426話 Chambry版362話のうち

より300話を選んで訳出

“セミとアリ”

△小学館 イソップ寓話集(全2巻)

渡辺和雄 訳 1982

Chambry版による, 359話

“セミとアリ”

△講談社 イソップがいっぱい

足沢良子(文) 1986

“ありときりぎりす”(100話中第3話)

△小学館 イソップのお話

森街三郎 1966

“ありときりぎりす”(31話中第8話)

ドイツ

△Fabeln des Aesop Rudolf Hagelstange

(Ott Maier Verlag), 1980

“Die Grille und die Ameise”

(36話中の第3話)

△Die Fabeln des Aesop Ruth Spriggs

(Tesoloff Verlag) 1982

“Die Grille und die Ameise”

(142話中の第41話)

△Zuanzig Fabeln des Aesop

Kurt Baumann

(Nord-Süd Verlag) 1975

(20話中に欠如)

イソップがいっぱい 足沢良子(文) [講談社]

ありときりぎりす (抄)

夏のあついあつい日のこと。

ありたちは 野原をとおって セッセと食べ物をうちへ運んでいました。

朝は早くからおきて はたらきました。居間もすこしやすむだけで、はたらきました。夜も暗くなるまで はたらきました。

雪でもふってきそうなる日。

一匹のきりぎりすが、ひよろひよろと、ありのうちへやってきました。

ありたちのうち、あたたかでした。そのうえ夏のあいだに運んだ食べ物がいっぱいありました。

きりぎりす「はい。夏のあいだ、ずっと歌ばかりうたっていたものですから。」

ありたちは わらいました。

それから きりぎりすをちょっとからかうように、いいました。

「それじゃ、きりぎりすさん。夏は歌をうたっていたんだから、こんど冬はおどりでもおどったら どうですか？」

そして、ありたちは、声をそろえて わらいましたってさ。

イソップのお話 奈街三郎 [小学館]

ありときりぎりす (抄)

あついなつでも、ありたちには なつやすみがありませんでした。

〔ふゆ〕きりぎりすが、ありのいえをさがしてたとき、ありたちは、たのしく たべていました。

「ありさん おねがい。なにかたべるものをください。おなかですいて しにそうだよ。」

ありたちは びっくりしました。

「やあ いつかの きりぎりすさんじゃ ないか。なつはうたっていたから ふゆはおどっているのかとおもったよ。さあ えんりょなくたべて ください。げんきになって ことしのなつも たのしいうたをきかせてもらいたいね。」しんせつなありたちでした。きりぎりすは うれしなみだを ぼろぼろこぼしました。

教訓 いつも将来のことを考えて行動しなければ、きりぎりすのような運命をたどることになるでしょう。

イソップのお話 河野与一訳 岩波少年文庫  
セミとアリ

冬になって、穀物が雨にぬれたので、アリがかわかしていますと、あなかのすいたセミがきてたべものをもらいたいといいました。

「あなたは では、なぜ夏のあいだに、たべものをあつめておかなかったのです。」

「ひまがなかったのです。歌ばかりうたっていましたから。」と、セミはこたえました。

するとアリは笑っていました。

「夏のあいだうたったなら、冬のあいだ踊りなさい。」

あとで悲しんだり、危険にあたりしないためには、すべてのことに気をつけていなければなりません。



キリギリスとアリ R. ハーゲルシュタンゲ

Die Grille u. die Ameise/R. Hagelstange  
(なお、かれは別版では *Die Grille und die Ameise* ではなく、*Der Heuschreck und die Ameise* を使っている。)

ある晴れた寒い冬の日、お腹のすいたキリギリスが一匹のアリに出会った。アリは幾粒の穀物を、日光にあてて乾かすために巣からとり出してきたところであった。

「善良なアリさん。食べものをいくらか私に戴けないものでしょうか」とキリギリスはたのんだ。「そして私はこの空腹をいやしたいのです。もう何日もなにもたべておりません。」

「あなたを養うために、私は今日までやってきたものかな」とアリは答えた。「あなたは、夏の間じゅう何をしておられたのか?」

「夏にですか?」キリギリスは芸術家の誇りも失って、答えた。「日が出てかれ暮れるまで、うたっておりまして。」

「それは素晴らしいことで。」アリはいった。「あなたは夏にうたっておられた。それなら、冬には踊りをなさればよろしいのでは。」

夏に貯蓄たくわえをしないものは  
冬にはつらいおもいをするようになる

Die Grille und die Ameise

Eines schönen, klaren Wintertages begegnete eine hungrige Grille einer Ameise, die etliche Körner herbeitrug, um sie in der Sonne zu trocknen.

»Würdest Du mir etwas zu essen geben, gute Ameise«, bat die Grille, »damit ich ein wenig meinen Hunger stille. Ich hatte schon lange nichts mehr zu essen.«

»Wie komme ich dazu, Dich zu ernähren...«, entgegnete die Ameise, »Was hast Du den ganzen Sommer über getan?«

»Im Sommer«, antwortete die Grille nicht ohne Künstlerstolz, »da habe ich tagaus, tagein gesungen!«

»Ausgezeichnet!« bemerkte die Ameise. »Da Du im Sommer gesungen hast, solltest Du im Winter tanzen.«

Wer im Sommer nicht spart,  
schilt den Winter gern hart.

キリギリスとアリ R. シュプリックス

Die Grille u. die Ameise/R. Spriggs

冬のある凍てつくような寒い日、アリたちは自分たちの湿っぽくなった貯蔵穀物を、日光にあてて乾かしていた。飢えと寒さで半分死にそうになったキリギリスが、アリにたのんだ。

「きみたちの貯えた穀粒のなかから、少々、わたしに分けてもらえないものでしょうか。そして、どうかわたしの生命を救ってほしいのです。」

「ぼくら、秋に、昼も夜も働いて、そうして穀物を集めたんだよ。一体なんでそのぼくが、きみに穀物をあげなけりゃならないんだい。」アリは腹を立てていった。「では収穫のときに、きみは一体何をしていたんだい。きみだって、そのときには食べもの集めにでかけられただろうに。」

「おお、わたしは、そういう時間が全くなかったのです。」キリギリスは答えた。「あんまり歌うことに忙がしすぎまして。穀物集めにはとうとう、行けませんでした。」

アリは非情に、笑った。「そんなら、冬にも歌っていろよ。」アリはそういうと、これ以上何もいうことはない、とばかり、くるりと向きをかえ、自分の仕事をつづけた。

夏にたくわえをしなかったものは  
冬にはよい目には遭わない



*Die Grille und die Ameise*

An einem kalten frostigen Tag im Winter trockneten Ameisen ihre feucht gewordenen Kornvorräte in der Sonne. Eine Grille, die vor Hunger und Kälte halb tot war, fragte eine Ameise:

„Kannst du mir nicht einige Körner von eurem Vorrat abgeben? Du könntest mir damit das Leben retten!“

„Wir haben im Herbst Tag und Nacht gearbeitet und Korn gesammelt. Warum sollte ich es dir geben?“ fragte die Ameise verärgert. „Was hast du denn zur Erntezeit gemacht, als du auf Futtersuche gehen konntest?“

„Oh, ich hatte dazu gar keine Zeit“, antwortete die Grille. „Ich war viel zu sehr mit Singen beschäftigt, zum Körnersammeln bin ich nicht gekommen.“

Die Ameise lachte unfreundlich. „Dann sing auch nur im Winter“, sagte sie. Und ohne ein weiteres Wort zu verlieren, drehte sie sich um und fuhr mit ihrer Arbeit fort.

*Wer im Sommer nicht spart,  
schilt den Winter gern hart*



辞書・訳語 Auszug

△博友社 独和辞典 相良守峯 (1963)

Grille f.-n. ① [Lw<gr., Heuschrecke]  
(動)こおろぎ。②<lat. grill, Gebilde  
der Grotteskmalerei"] [通常 pl.] (Lau-  
ne) むら気, 気まぐれ, 妄想, ふさぎ,  
物思い, 気苦労,

Heuschrecke f. (動) 直翅類 (ばった, い  
なご, かまきり, こおろぎ, など) /  
Heuschreck m. [詩]

Wiesenzikaden [欠如]

Zikade f.-n (動) せみ (科)

Zikadenmännchen n. 雄せみ (鳴せみ)

△三修社 現代独和辞典 R. シンチンゲル,  
山本明, 南原実 (1972)

Grille f.-n①コオロギ, ②気まぐれ, むら  
気, ③もの思い, 気うつ。

Heuschreck f. バッタ, イナゴ

Wiesenzikaden [欠如]

但し Wiesenklee アカ<ムラサキ>ツメ  
クサ

Wiesenschaukrout タネツケバナ,

Zikade f. ①セミ ② [古] キリギリス

△三修社 現代和独辞典 R. シンチンゲル,  
山本明, 南原実 (1980)

Kirigirisu 蠶蜥 die Wiesenzikade-n /

Gampsocleis buergeri

Semi 蟬 die Zikade (Eine Zikade zirpt.)

蟬時雨 eine Zikadensinfonie

Korogi 蟋蟀 eine Grille / [科] Grylloidea

エンマコオロギ Gryllulus mitratus

<Grillen zirpen)

△郁文堂 和独辞典 富山芳正, 三浦勲郎,  
山口一雄 (1966, 1983<sup>◎</sup>)

きりぎりす (昆) die Laubheuschrecke-n  
[独和に欠如]

こおろぎ 蟋蟀 die Grille

△講談社 [学術文庫] 英和辞典 川本茂雄  
(1979)

grasshopper, バッタ, イナゴ, キリギリ  
スの類 / (米・軍俗) (無武装の) 軽偵察  
連絡機 (cub)

cricket ①コオロギ / as merry as~とて  
も快活な ②クリケット (11人の2組で  
行うイギリスの球技)

Cicada (虫) セミ (pl. -das, -dae)

Cicala=cicade

locust 1. (虫) イナゴ, バッタ, (米) セ  
ミ 2. (植) イナゴマメの木 (実), バリ  
エンジュ, ニセアカシヤ 3. 貪欲な人,  
破壊的な人

△岩波 英和辞典 (新版) 島村盛助・土居光  
知・田中菊雄 (1958, 1978<sup>◎</sup>)

grasshopper (昆虫) きりぎりす, いなご  
の類

cricket (昆虫) こおろぎ

cicadan. (pl. -s, -dae), cicala (lt.) cigala  
(lt.) せみ (蟬)

locust (昆虫) ばった, いなご, (米) せみ  
(=cicada), 破壊的な人, 貪欲者, (植)  
いなごまめの木 [実] いぬあかしや

△三省堂 最新コンサイス和英辞典 中島文雄  
1967

キリギリス a grasshopper

コオロギ a cricket (Crickets are chirping)

セミ a cicada, a locust (米),

(A cicada sings.)



## II 〔集計結果について〕

### a) 日本：一

①「アリとキリギリス」の既知度は大へん高い。200名中180名。90%の高率であった。そしてそれを知る時期も早期にはじまる。幼稚園が60%強。小学生時代を通してはほとんど全員が知ってしまう。媒体は、絵本が最多、65%。

②「アリとキリギリス」を75%以上が面白いとおもっている。そして教訓としてすぐれているとおもっている者はそれ以上(80%以上)である。

また、この話を現実的とおもっている者が、上記2点に比しては少ないものの67%に達していることについては、現実的の意味が明確ではなかったこと、二通りほどあることからきている、とおもわれる。

- 1) 自然の事実を反映している(自然の事実を記述している)という意味での現実的。
- 2) 季節抜きに、生物は食べものがないと生きていけない、という意味に現実的を解した場合。

フェアブルが抗議しているように、自然状態でキリギリスは(フェアブルの「昆虫記」ではセミであるが、キリギリスも同じ)、冬まで生きていない。冬に食物さがしをすることなど不必要だし、ありえない。夏、かれらはかれらなりの食物をとっている。こうした生物学的事実を知らぬ者は、こんにちでは多くない筈である。つまり、「アリとキリギリス」を現実的と解した者は、2)の意味での現実的をよみとった者の数字と解してよいであろう。

③ この項に対して解答例の少ないことは、反面、「アリとキリギリス」の知名度が突出していることを物語っている。「アリとセミ」(7名)は、前述の如く、内容的には「アリとキリギリス」とほぼ同一。「アリとハエ」(1名)は、翅のないアリをあざけて笑い、どこにでも、

宮殿の中にも、とんでいけて、御馳走にとまると自慢していたハエが、そのために、人手につかまり殺される話。「アリとハト」(15名)は川で溺れかけていたアリを助けてくれたハトに、ハトをねらった鉄砲打ちの男の足をかんで手もとを狂わせ、ハトを助け恩返しをしたアリの話で、この主題は「ライオンと恩返しのネズミ」に共通。何れも、極小のものが巨大なものをも救いうるという話。——「アリとセミ」以外は同じくアリの登場する話でも。色調がちがっている。この点からみると、この少ない数字も意味をおびてくる。

④ イソップ〔正解〕(150名)のほかアンデルセン(37名)とグリム(45名)に集中し、他はほとんど0なのは、イソップ以外にはこの種の話(寓話・童話・民話……)が、ひろく<グリムとアンデルセン>とに結びついて、うけ入れられている事実を示している。第I報で、M. ルターとG. レッシングの寓話を紹介したが、この2人の周知度は(日本では未だ)稀薄(もっともレッシングには「アリとハムスター」があるのみであり、ルターの15話のうちにはアリの出てくるものはない)。

ともかく「イソップといえば「アリとキリギリス(od. セミ)」、「アリとキリギリス」といえばイソップ」が証明された形。

⑤ 100名以上のものが6つ(「イソップ」の周知度をよくあらわしている。

「ウサギとカメ」(186名)、「オオカミと少年」(160名)、「北風と太陽」(158名)、「都会のねずみと田舎のねずみ」(136名)、「キツネとブドウの房」(111名)、「肉をくわえた犬」(109名)。それに「ライオンと恩返しのネズミ」(64名)、「蛙と牛」(62名)、「海綿を運ぶロバ」(36名)、「二人の旅人と熊」(23名)。以上は、明治以降、初等教育の国語教科書にイソップがとり入れられたことと無関係ではないであろう。

⑥⑦ 本アンケートの一つの眼目は、この2項の問いかけにある。宗教を質ね、それと「アリとキリギリス」の教訓、一般的にはイソップの倫理との相互関係をみようというわけである。

カルヴィニズムを中心に「プロテスタンチズムの倫理と資本主義の精神」(1904)の内的結合に着目したM. ウェーバー(Max Weber 1857~1920)の研究は、その後、同一視点から、古代ユダヤ教、ヒンズー教、仏教、儒教などにも及び、「宗教社会学」とよばれるようになった。M. ウェーバーの志向をも活かしつつ、かれが射程に入れた諸宗教圏に、さまざまな形で伝播、受容され流布している[イソップ]寓話の在りようを、新たな方法でとらえ直す<下からの宗教社会学>Religionssoziologie von unten>。——但しく新タナ方法、ソレガ問題ダ!>。

それ故、このアンケートは、今後、ヒンズー圏、イスラム圏、ユダヤ圏、儒教圏などにおいて、アンケート項目にもさらに工夫を加えつつ、行なっていく予定である。

ここでは、それ故、集計された数字のみでなく、⑥⑦の関係にこそ関心がもたれる。それについての考察は別稿とせざるをえない。

⑥—仏教(79)、キリスト教(42)、神道(8)、アニズム(6)、ヒンズー教(3)、ゾロアスター教(2)、儒教(1)、道教(0)、ユダヤ教(0)、イスラム教(0)、その他(24)、無(37)

⑦—調和する(93)、調和しない(49)、無(48)という数字も、やはり多くのことを語っており、興味ある問題提起となっている。(この点の論評も別稿)。

⑧ この項の設問はかなり場当りの他の項の設問との関係から引き出せない説文が並んでいる(特に③~⑥)。心理的にはその気になりそうなが書き込まれている。そこで数字は少ないが、③~⑥にも記入がみられたのであろう。アンケートは正解を求める問題用紙ではな

いので、これはこれで有意味である。

「アエソホスがデルフォイの神殿で、権力を楯にぶらぶらしているアテナイ人をキリギリスに見立てて、アリのごとく働く労働者の声をアリに託して語った」(79名)、そして激昂した群衆の投石をうけて死んだ。約40%の者がこういう判断をしたについての一つの背景として、NHKが「人物評伝シリーズ」で「イソップ」をとり上げ、そのラストシーンが上述の光景であった、ということが想起される。NHKのこの考証が正しいかどうか、については私は結論を下すことができない。もっともA. ヴィーフルス「デルフィのイソップ」(Anton Wiechers: Aesop in Delphi, -Beiträge zur Klassischen Philologie-1966)などに徴してみても、この問題、他のイソップ伝承ともども明確な結論に達するにはまだ時日を要するのではなかろうか。

「起源はわからないが、古くからあった動物寓話が、ギリシャの各地で語られるようになり、「アリとキリギリス」もその一つである。」(57名)、

「アリストテレスが日常の教訓として倫理学の中にとり入れた」(25名)、などは何れも結局は広い意味のイソップ伝承の一こま。前者は「人間イソップの存在感を小さくうけとっている者=29%」、後者は「大哲学者アリストテレスへの思想的資料供給者イソップ像=12.5%」をあらわす。

後者は(倫理)思想的には余り正しくないかも知れない。しかし「こういう次元でのイソップ評価が生れること自体が興味深い。ソクラテスによるイソップ偏重は、ラ・フォンテーヌによってすでになされたことであるが……。

⑨ 先ず夫々の正解を記してみる。

- |             |       |
|-------------|-------|
| (1)狼と七匹の子山羊 | グリム   |
| (2)カチカチ山    | 日本の民話 |
| (3)花咲爺さん    | 日本の民話 |
| (4)熊と狐      | ・イソップ |

「アリとキリギリス」再考

(5)ハムスターとアリ	レッシング
(6)長靴をはいた牡猪	シャルル・ペロー
(7)ハーメルンの笛吹き男	グリム
(8)獅子と恩返しのおねずみ	・イソップ
(9)王様の耳	ポルトガル
(10)風の又三郎	宮沢賢治
(11)蚊と獅子	・イソップ
(12)美女と野獣	フランス民話

自分の爪で自分をかきむしって、とうとう止めてくれとたのむ。蚊は獅子に勝ったつもりで、意気揚々ととんでいって蜘蛛の巣にひっかかった。蜘蛛にくわれながら、一番強いものに勝ち、こんなけちなものに亡される身の不運をなげいた。

「獅子と恩返しのおねずみ」は前出のゆえ省略。

すなわちこの中ではイソップは(4), (8), (11)の三つである。(4), (11)はイソップのなかでは日本ではあまりポピュラーでないものを入れた。そのためか○を付した者が少なかった。「熊と狐」—19名。「蚊と獅子」—11名。「獅子と恩返しのおねずみ」—53名は、④で、これを知っている者の数64を下廻る結果が起きた。

イソップの「熊と狐」(Chambry 版底本による岩波文庫「イソップ寓話集」)は次のような話である。—

一匹の熊が自分は死んだ身体は食はないから、人間を愛しているものであるかのように大いに自慢していました。すると狐は彼に向かって「どうか生きて者ではなくて、死体を引き裂いてくれるように」といいました。

この物語は、偽善と虚栄のうちに生きていく慾張りの正体を暴露するものです。

「熊と狐」の組合せでは面白い話が日本(岡山県御津郷にて採集)にある(本学・生活資料館館報No.5, 1985参照)。狐が悪知恵で熊をうまく利用するが、最後に仕返しをうけて死んでしまう。ほかにも「熊と狐」の組合せでいろいろな場所に、たくさん話があるようにおもう。それらを蒐集し、それらの関連を探っていききたい。そうすれば上の2話の間にも、直線的ではなくとも、それだけに複雑、微妙、意味深な脈絡が浮上してこないとは限らない。

「蚊と獅子」抄

あの小さな蚊が、獅子の鼻のまわりの毛のないうらむ面を咬み、さんざん苦しめた。獅子は

さて、イソップをはなれ、他の話に転ずると、かなり多数の者が、イソップ以外のものをイソップとおもっていることになる。

顕著な例—

(9)王様の耳—100

(1)狼と七匹の子山羊—80

(7)ハーメルンの笛吹き男—74

(6)長靴をはいた牡猫—62

さすがに日本の民話でのとりちがえは少ない。

(2)カチカチ山—4名

(3)花咲爺さん—3名

(10)風の又三郎—2名

「王様の耳はロバの耳」で知られるこの話を50%の者がイソップとおもっていることは、この話の周知度と、イソップの知名度の高さを同時に示すものであろう。出典をたまたま、ポルトガル、としたが、手許にあった文献による(「世界の民話」矢崎源九郎編、実業之日本社、1977)。—但しここでは「王子さまの耳はロバの耳」となっている。

「王様の耳」は現在、時としてアンデルセンの童話として語られたり、放映されたりしている(TVアニメーション作品をみたことがある。)また私の幼時からの記憶としては、この話は「裸の王様」とともにアンデルセン童話の主たるものであった。しかし岩波文庫版、アンデルセン童話集(全8巻)に「裸の王様」はのっているが、「王様の耳」は存在しない。

ともあれ、よく語られる「王様の耳」ははじめから王様の耳がロバの耳をしているところからはじまる。王様はそれが人に知られることを

おそれて、理髪師たちを生きては帰らせない。一人だけ絶対口外しないと誓って王宮を出ることができた。しかしこの男は胸にしまっていることの苦痛に耐えかねて、樹の根もとに穴を掘り、そこにこの秘密を放出してやっと心の重荷から解放された。春、強風が樹を吹き倒した。穴が割れ、吹き込まれた声が巷を流れた。以下周知の通り。

この話の原形はギリシャである。

フリギヤの国、ミイダス王の話。ミイダス王は森の神パンの吹く笛の音が、音楽の神アポロンの奏する琴の音よりも優れている、といったばかりに、アポロンののろいをうけた。「そんな耳はロバの耳になるがよい。」王はそのみっともない耳を王冠でかくしていたが、側近の床屋は秘密を見てしまう。それをひとりで持つことのつらさに、土の穴へささやきこんで埋めたところ、そこから生え出た葦が、吹く風にそよいでは秘密をもらした。

ゲーテはこの話を逆手にとる。「ローマ悲歌」Römische Elegien (1806) 中の第20詩篇の最終句に、愛の秘めごとがそのように語り伝えられよ、とうたう。「王様の耳」も、ひたすらこんにちの形への道を歩んだわけではなかった。こうしたことを知っておくのは、イソップ変容を感じとる上にも役立つであろう。

#### b) 西ドイツ：—

西ドイツ、ミュンヘンとアウグスブルク München u. Augsburg でのアンケート調査及び集計等一切を全面的に鎌田康男氏の協力に負っている。

氏は現在 München 大学において日本学 Japanologie を担当しているが、Augsburg 大学を中心にした滞独11年間の研究成果を、大著「若きショッペンハウエル」Der junge Schopenhauer として刊行した。これは1988年 Schopenhauer 生誕200年を記念する代表的著作となった。

日本の場合と同じく、氏の手になるアンケー

ト用紙と集計結果を掲げてある。当然、日本の場合と同じく、その注釈が必要であり、いまの段階でも述べたいことが多々あるが、予定されている追加資料を俟った上で、試みたい。且つ日本との比較考察も、非常に興味深いものとなろう。

### Ⅲ <アリとキリギリス>contra <旅人とプラタナスの樹>

いまここにアリとキリギリスが使われている二つの新聞記事がある。一つは80年代を前にして開かれた「生活設計シンポジウム——80年代に向けての課題と展望——」の紹介（一頁大紙面中央の見出しに「あなたはアリ派？ キリギリス派？」とある）。もう一つは今年（1989年）1月8日から10日までニューヨーク・タイムズ紙が3回連続で行った社説の紹介である（朝日新聞1月11日付）。日本を勤勉なアリにたとえ、経済の面で国際競争力での勝者とし、アメリカをキリギリスとして反省すべき点ありとしている、ということ。

この二つの記事はⅠの冒頭に記したように、こんにちなお<アリとキリギリス>が流行しているという例証であるが、すぐ気付かれるように、かくの如く「アリとキリギリス」をとり上げる意識は、祖形的<アリとキリギリス>の教訓性の次元をこえている。

後者ニューヨーク・タイムズの例は、一見、祖形に近いが、すでにアリ対キリギリスでなく、キリギリスをも一旦肯定した上でのアリである。アリにたとえた日本が「高い貯蓄率、長期的な視野に立った投資、先端技術の意欲的な開発」を行い「世界の電子機器分野でシェアを急拡大し、超伝導開発でも優位に立つに至った」ことをのべ、これに対し、キリギリス・アメリカも貯蓄率向上、かの双子の赤字（貿易赤字と財政赤字）の削減、研究開発振興、企業の長期的経

営などで対抗すべきなりという。

祖形「アリとキリギリス」が農耕社会を念頭において理解し易いのに対し、これは脱工業社会、高度情報社会、ソフト産業社会、国際産業社会などの複合的現実の経験をまっぴら充分な理解をもちうる。

さて以上は「アリとキリギリス」の寓話的譬喩の有効性の根強さを語っているものであろうか。それとも社会構造の根本的変容はその譬喩性の射程を曖昧なものにし、有効性を失なわしめているであろうか。

イソップの終焉？—Das Ende des Aesop？

それもよからう。しかしイソップは「アリとキリギリス」のほかにはたくさんある。「都会のねずみと田舎のねずみ」があり、「旅人とプラタナスの樹」がある。いまこの二つが、ふと非常に示唆にとむ話におもえてくる。

「田舎のねずみが都会のねずみに自分の方ではおいしいご馳走がいっぱい食べられる、と自慢され、一度来てごらんとそそのかされて行ったところが、猫はいる、人間はワナをしかけているので、戦々競々、田舎で平和にくらすのが何よりと、<sup>いとま</sup>暇を乞う。」

「旅人は太陽の照るなかを歩いてきて、いまプラタナスの樹を見つけ、木蔭で心地よくひと休みしている。汗もひいて樹を見上げるゆとりもでた。「おや、この樹は一つの実もつけていない。役に立たぬ樹なのだ。」思わず口を出したことに、プラタナスは忘恩の人間に、腹を立てる以上にさげすみの情を抱く。「いま現にわたしの恩恵をうけていて、それに気付かぬとは、何たるうすっぺらな奴なのだろう。」

私はここに現代の「都市問題」をみる。近代都市は、いわゆる科学文明の普及を伴って、生活の便利さ・快適さの故に、人口の流入・増加を招き、それとともに、規模膨張の一途をたどってきた。その結果、何が起きたのか。具体的に例を東京にとって考えれば一番わかり易い。

生ゴミの横溢、産業廃棄物の山、水の汚染、光化学スモッグ、交通渋滞、通勤地獄などなど。郊外の樹は、とうの昔に、郊外が郊外でなくなるとともに姿を消した。木蔭で憩うどころではなくなったのだ。

田舎のねずみの話は、ひところは、田舎から都会に来た者の都会になじめぬ負け惜しみの心理ともよみとれた。或いは都会での挫折感の裏返されたやっかみともうけとれた。しかし、このねずみはいまや堂々と、田舎の良さを自覚して環流していこうとしているのではないか。

東京をめぐって、遷都、改都、拡都、分都、展都論などが噴出していることは周知の通り。つまり都会のねずみの方が安定した心境を失い田舎のねずみにひかれている現状である。

祖形「田舎のねずみと都会のねずみ」の末尾の句は、それを素直にうけとることが正しかったのだ。

「この物語が明かすのは、質素に暮して不安なく生きていく方が、恐れの中に苦しんで贅沢するより優っているということだ」（原文末尾の句）。

この言い方はまだ控え目である。がその先をいう前に、しばし東京をはなれ、西ドイツ、黒い森 Schwarzwald で、久しく〈存在の思索〉Seinsdenken をつづけてきたハイデッガー M. Heidegger (但、1976死去)のいうところをきこう。

真に住むこと (Wohnen) こそ地上の人間に与えられた至福である。

真に住むことは、天と地の間、明るめるもの (das Lichtende) として真理を感得しつつ生きることである。四元の大きいなる生命との根源的同一に目ざめていること、……

このような真に住むことに関して、こんにちの田舎と都会と何れがえらばれるべき場所 (Ort) であるか、〈存在の思索〉者は誰でもそれを分別しつつある。

しかしながら都会と田舎を単純に対置してことがすむのではない。放置すれば田舎も都会に転化するのが現代都市の論理をなしている。かくしてエコポリス ecopolis 的論理が必然となる。

いま、都市の概念をこれまでと全くちがったパラタイムで構築しようとする動きが進行している。一人の論者はそれにエコポリス ecopolis という名を与えた。

それは都会を田舎（自然）との対立において考えるのではなく、田舎（自然）の中に、都会を自然との独自の調和として、甦らせることで

ある。これは別言すれば、忘恩の旅人が樹との対話、自然との対話を忘却したことへの深刻な反省をよりどころとしている、といえる。すなわちイソップ・バブリウスの序文のことばに通ずる。

…松の木ですら語った。そして月桂樹の葉もまた…。魚も鳥も…、全く知的に人間と語り合った。

こんにちなお〈イソップの終焉〉ではないというべきか。

## 児童書に採用された伝承文芸

—— イソップ寓話を中心に ——

〔第Ⅱ報（その1）に続く〕

中地万里子，川合貞子，加藤優子

### はじめに

〈そんなに遊んでばかりいては、きりぎりすになるよ〉、〈あれは酸っぱい葡萄だって？〉、〈兎さんだって油断したら負けるのよ〉など、われわれが毎日の生活のなかで何気なく口に出し、子どもにも話しお互いを励しあったり、自らを戒めたり、納得したりする考え方や、諺的なことばにはイソップ由来の譬喩が少なくない。

古来からの各種「イソップ寓話集」の数多い寓話のなかには、史実としてのイソップが語った本来のイソップ寓話を中核としながらも、研究者らによって、インド起源説や、オリエント発生説をとられているイソップ風寓話も含めて広く世界中に流布し、伝承文芸としてさまざまな変容を繰返しながら今日に伝えられているといわれる。本研究におけるわれわれの課題は、近代以降日本の子ども達が接してきた「イソップ寓話」の実態を明らかにし、その教育的役割を考察検討することである。

すでに、1987年度の本プロジェクトの報告（〔第Ⅱ報—その1—〕）において、近世以降の子どもの本における「イソップ物語」の登場の経緯についての概略を述べた。即ち「イソップ寓話」そのもののわが国への渡来についての最初の根源は未だ明らかにされていないが、中世末期の1593年（文禄2年）に、天草のキリシタン学寮から平家物語と合冊製本して出版されたのが、通称「天草本・伊曾保物語」といわれるローマ字表記の『イソポのハブラス』で、現存する日本語訳「イソップ寓話集」の最古のものである。また、その数年後の1610年代（慶長末期～元和初期）に、文語体、古活字本の仮名草子『伊曾保物語』の初版が成立出版されている。

これは、その後数度にわたって版を重ね、1659年（万治2年）に新たな版が起されたとき、挿絵入りの整版本となった。

キリシタン禁制の江戸時代において『イソポのハブラス』がどのような扱いをされたのか、その点に関しての知識を得ていないが、「伊曾保物語」としての「イソップ寓話」が、わかりやすい処世訓としてわが国の近世社会で活用されたことは、すでに述べたところである。その理由は、文化の異なる西欧渡りの祖本の話をも、日本人向きに再話し編集した『イソポのハブラス』や『伊曾保物語』の著者の功績であろう。また、話の内容寓意が、民族や時代を越えて通用する普遍的なモラルを説いたものが多いこと、上層階級のためのそれではなく、いわゆる民衆の処世訓であったことも広く流布した条件であろう。さらに、鼠や馬や鳥など、いろいろな体形特質をもった動物を登場させた動物寓話が大部分を占めていることも、話をわかりやすく、面白くし人々の興味をそそった理由と考えられる。それは、同時に「イソップ寓話」が子ども向けのお話としての条件を満たしていたことにもなる。子どもにわかりやすく、子どもを楽しませるお話の条件は、語り継がれて伝承した「昔話」のもつ条件でもあるが、「イソップ」のお話は、われわれ日本人が、日本の昔話の「桃太郎」や「かちかち山」を親しんできたのと同じように、「兎と亀」や「ライオンとねずみ」など、絵本やお話や童謡を通して幼ない日から心の故郷の情景のひとつとして持っている世界である。

なお、子どもを聞き手や読者対象とする外国の有名なお話、児童文学や昔話は数多くあるがその邦訳紹介において「イソップ寓話」は唯一江戸時代以前という突出した早い時期に行われた。徳川幕府300年の鎖国政策の影響であろうと考えられるが、江戸時代には蘭学などは別として、文学作品の邦訳はほとんど行われなかったのではないだろうか。「アラビアン・ナイト」が1875年（明治8年）ゲーテの「狐の裁判」が1884年（明治17年）「グリム童話」が1887年

(明治20年)など、明治期に入ってから外国文学の翻訳・翻案活動は漸く動きは始めるのである。「イソップ寓話」が、日本の昔話と同じように、早くから子ども達に親しまれるお話をなった理由は伝承の歴史の古さにも一因があると思われる。

われわれの本プロジェクトの本年度の予定は子どもの本における「イソップ寓話」の再話の分析を通して、再話者(著者・編集者)や社会一般のイソップ寓話観、生活意識、価値観に接近してみることであった。今回もその大半の時間を資料集め等に費してしまったが、予備調査的なアンケートも実施できたので、それも加えて一応のまとめを報告したい。

## 1. 児童書「イソップ物語」の読者対象

近世における「イソップ寓話」の出版状況はすでに述べたが、天草本・伊曾保物語の『イソポのハブラス』も、仮名草子本『伊曾保物語』もその読者として、子どもを対象にしたものではなかった。したがって、その文章や内容は子ども向けにはなっていない。例文を引くと長くなるので省略するが、一般向けの書物として難しい表現はないが、その譬えは成人向けと考えられる。また、それら「イソップ寓話」の影響を受けて作ったと見られている同時代刊行の笑話集『戯言養気集』(1615年)『梅草』(1643年)『わらんべ草』(1651年)『為愚痴物語』(1662年)少し時代を下って『絵入り教訓近道』(1844年)等にも「イソップ話」がとりあげられているが、いずれも間接的には子どもが影響を受けたことは十分考えられるが直接の読者としてはおとなを考えて出版された処世訓集のようである。

明治に入って、日本の近代化政策が急速に進められるなかで、啓蒙書的な図書は西洋圏の書物の翻訳も含めて出版活動がしだいに活発になっていく。「イソップ寓話」も、先行する天草本

仮名草子本とは別系列で、当時の文部官僚で教育者であり英学者の渡部温による邦訳が出版された。これは、トマス・ジェームズ(T. James, 1595~1624)の英訳本からの重訳で、洋画家藤沢梅南の扉絵、河鍋暁斎、榊篁邨の挿絵入りで1872~1875年の間に東京と沼津から刊行された、6巻237篇の『通俗伊蘇普物語』である。

本書は、訳者自身の例言に「……意味の深長なるとに注意して、猶一層の分解を加へ童蒙へ説諭せらるる事あらば、予が本懐これに過ず…」と記されているのを見ても、読み聞かせ、語り聞かせる対象としては、子どもを大いに意識していたことが明瞭である。なお、この『通俗伊蘇普物語』は、学制公布後の明治期小学校教育の修身教科書として扱われたこともあり、海後宗臣編集『日本教科書大系』第一巻にそれが収録されているが、解題によれば、教師用教材として活用されたものようである。また、その後の明治期を通して、さらにそれから流れをひいている昭和戦中期までの小学校国語科および修身科の教科書教材に、繰返し「イソップ寓話」が採用されるが、それらの出典についての検証は、本研究グループでは未だ行ってないが、小堀桂一郎著『イソップ寓話』によれば、その大部分は、渡部温の『通俗伊蘇普物語』を源泉にしていると考えてよいという。

このほか、明治初期に「イソップ寓話」を紹介した書物には、福沢諭吉の『童蒙をしへ草』(1872年)がある。本書は福沢の教育的意図から編まれた啓蒙書で、イギリス人チェンバーズのMoral Classbookの訳書である。構成は全五冊29章より成って各章に標題として実践的徳目をあげその趣意を記し、それぞれの歴史上の逸話や寓話を数種類入れて具体的に説いていくという編成のものであるが、その材料として「イソップ寓話」が10篇用いられている。

例えば、第13章の「儉約の事」の項目に「蟻といなご(きりぎりす)の事」第26章「信実を守る事」の中に「羊飼う子供狼と呼びし事」などがあげられる。福沢諭吉がこれらの話材を



「イソップ寓話」であると知っていたか否かはわからないということであるが、この著作を世に出した意図を述べた序文に、〈…願くば後進の少年、諸学入門の初に先づ此書を読み…〉とあるのを見れば、これから学問を志す少年を読者対象に考えたことは明らかである。本書が渡部温の『通俗伊蘇普物語』と同年の明治5年に出版されたことは、西洋の寓話が近代化をめざす時代の日本の児童教育の教材として活用された点において注目したい。

しかし、この時代これらの書物の読者となり得た児童は、読書力のかかなり進んだ年齢であったと考えられる。一般に、わが国において子どもの発達段階を考慮し、年少の児童を対象とした図書が企画出版されるようになるのは、明治30年代以降と考えてよいだろう。このことは、小学校の教科書に掲載された同一教材の表現の違いを比較してみてもわかることである。前回第Ⅱ報に掲載した明治20年（1887）の『尋常小学読本巻二』の「欲ふかき犬の話」(A)と、明治36年（1903）の国定第Ⅰ期『尋常小学読本巻二』(B)及び大正7年（1918）の国定第Ⅲ期（1926年版も同じ）『尋常小学読本巻二』(C)の同じ話を比べてみよう。(A)、(C)は前報告に全文引用してあるので省略し、(B)のみを引用する。

イヌ ガ サカナ ヲ クハヘテ、ハシ  
ノ ウヘ ニ キマシタ。ソノ カゲ ガ  
ミヅニ ウツリマシタ。

イヌ ハ ソノ カゲ ヲ ミマシタ。ソ  
シテ、「ホカ ノ イヌ ガ サカナ ヲ  
クハヘテキルノ ダ。」ト オモヒマシタ。  
イヌ ハ 「アノ サカナ モ ホシイ。」  
ト オモヒマシタ。ソシテ、ワント、ホエ  
マシタ。

スルト、イヌ ノ クハヘテキタ サカナ  
ガ ミゾ ニ、オチテシマヒマシタ。

(A)、(B)、(C)を比較すると、(A)の文語体は(B)、(C)において口語体となり、文章は(A)、(B)、(C)の順に短かく簡潔になっている。しかし、(C)では川のなかにいる犬が自分の影であることの説明

はない。代わりにそれは挿絵によって描かれている。(B)が全文片仮名で書かれているのに対し(A)は漢字が多く平仮名、(C)は片仮文にわずかに漢字が入って、1年後期における国語科の指導内容の系統的な位置づけがみられる。

福沢諭吉の『童蒙をしへ草』や、渡部温の『通俗伊蘇普物語』に次いで、明治20年代までの子どもを対象とした「イソップ物語」も含んだ図書には、省己遊人の『稚児話の友』福沢英之助の『訓蒙話草』など、幾種かが世に出るが、教科書においてさえ、子どもが十分に読みこなせる内容・表現の配慮が未熟であった時代のそれらは、未だ実証してはいないが、その意味で子ども達が読んでよくわかり、魅力的なものではなかったのではないかと考えられる。

しかし、子どもは幼ない日に親しいおとなに読んでもらい、解説してもらった本の内容を、なつかしく印象深く憶えていることが多い。教訓をそのまま押しつける話でなく、動物を擬人化するなどして面白く語った「イソップ寓話」の寓意は、生き方のモデルを求める年齢の子どもに納得のいく生活訓として、人気を得ていたものであろう。

明治後期になると、児童文学の領域でも翻訳再話、創作への活動にすぐれた業績がみられるようになる。巖谷小波の「少年文学」全32巻、「日本昔噺」全24巻、「世界お伽噺」全100篇などの仕事は、その先駆的活動として評価されるものである。また、上田萬年の訳になる「グリム童話」や「アンデルセン童話」の紹介は、異国のメルヘンを通して子ども達の想像の世界を広げた。そして、若松賤子の『小公子』や森田思軒の『十五少年』など長編児童文学の名訳も生まれ、更に、小川未明の『赤い船』の刊行にみられる近代的創作童話文学の芽生えもあって、子どもを読者対象とする今日的な意味での児童文化財としての文学作品の出版に良心的なエネルギーが注がれた。

このような児童書出版の環境のなかで「イソップ寓話」も子どもが読んで楽しめるお話の本と

して各種企画出版されるようになる。その代表的なものは報告Ⅱに書名を掲載した。続いて大正、昭和期になると、読者対象の年齢は下に広がり、挿絵入り「イソップ物語」や、絵本「イソップものがたり」幼年雑誌の中の「イソップ絵ばなし」など、単行本、シリーズ本、月刊誌などに数多く登場し今日に到っている。

## 2. 児童書「イソップ物語」にみられる特質

口づてに語り継がれる口承の文芸は、伝承の過程で語り手や聞き手の興味・関心事と、語られる時代や地域の文化の影響を受けながら部分的な変容を繰り返していく。しかし、後世永く伝えられていく話には、その核になる本質的な内容が大筋において残されていくという特質がある。わが国にも、古くから伝わる昔話・民話・伝説の数々があり、そのなかには世界的な範囲で類話が存在するものもあって、そのルーツや内容にはさまざまな観点から研究的関心が寄せられている。本稿においては、近代以降の児童書における「イソップ寓話」のとり扱い方について述べていきたい。

### 1) 話材の特徴

前報告で、大阪国際児童文学館所蔵の「イソップ寓話集」のうち、明治期以後昭和戦中期までの11種の児童書について、その話材を検討した。資料にした11種中表3の記号j（東京家政大学生生活科学研究報告 第11集p. 57）は、『カナオトギ イソップ物語』の書名で出版されているが、著者吉見文雄氏の創作性が高い幼年向きのお話となっているので、ここでは除外し、その10種と現在（1989年）市販されている「イソップ寓話集」の数種を加えて、その話材の特徴に言及したい。前掲10種の資料の5種以上にとりあげられた話材は49話であるが（本研究報告第11集p. 58, 4表）各寓話集にとりあげた話数の総数がそれぞれ異なるので、これによって単純に話材の傾向を判断することはで

きない。しかし、総話数を考慮に入れて49話がとりいれられている割合をみると、281話のa、257話のdはいずれも49話の90%を越す45話を含んでいる。次に160話のeが43話、bが41話で80%を越し、127話のiが27話、126話のcは36話で、前者が55%であるのに比し、後者は73%となっている。iとcは総話数がほぼ同数であるので逸話の原本や観点が違っていると考えられるが、その検討は今後の課題としたい。なおc、明治40年（1907）発行の佐藤潔訳『正譯伊蘇普物語』で、その序文に「…此譯書は我國の学生間に最も多く行はるゝ英譯に據りて正譯したるものなれば、英文と對照して閲読する者に、便利を与ふることも亦尠からざるべし。…」とあるのをみてわかるように、英語学習を始めた当時の中学生を主な読者と考えていたものようである。それに対して、iの「イソップ物語」は、昭和8年（1933）発行の春陽堂の少年文庫シリーズの1冊で、これ以前すでに富山房から子どものためのすぐれた「イソップ寓話集」として評価の高い模範家庭文庫『イソップ物語』を大正5年（1916）に、画とお話の本『イソップ物語』を大正14年（1925）に出した楠山正雄の訳で、どの話とも最初の出だしの文字を大きいゴシック活字とし、句読点にも細かい配慮をして子どもに読み易い工夫をしたことがうかがえる。また、はじめに序の詞があって、フェアデルスよりという韻文が導入の役を果たしている。ところどころにユーモラスな絵があるのも楽しい。

残るf、g、h、kは総話数が各々67、81、93、65と少なく、従って話材も「イソップ寓話」の広い範囲から少数をピックアップすることになるが、その割には、この49話からは、23話51%、20話41%、15語31%、14話29%が採用されている。

現在市販されている代表的な児童書「イソップ寓話集」の中から、岩波少年文庫の『イソップのお話』河野与一編訳の全300話には、この49話の中46話が入っている。この岩波少年文庫

は初版が1955年で、ハルム校訂本426話とジャンプリ校訂本362話から、選話されており、少年少女読者に不相当と思われる大人のための話、形がはっきりととのっていないもの、教訓がこじつけめいたものを省いたと訳者はあとがきで述べている。49話の中で省かれたものは「漁師と小梭魚」「老人と死」「蝮蛇と鏝」の3話である。なお、この少年文庫版にはもくじのはじめに〈有名なおはなし〉として次の15話をあげてある。この15話中11話が前報告(第11集)p. 58の4表にあげた49話に含まれている。

表1 有名な話  
(岩波少年文庫『イソップのおはなし』より)

話 材	山本光雄訳 『イソップ寓話集』	資料寓話 集採用数
①カラスとキツネ	鳥と狐	5/10
②セミとアリ	蝉と蟻たち きりぎりす せみ	6/10 1/10
③肉をくわえたイヌ	肉を運んでいる犬	9/10
④キツネとブドウ	狐と葡萄の房	8/10
⑤野ネズミと家ネズミ	田舎の鼠と都会の鼠	8/10
⑥ライオンとネズミ	獅子と(御恩返しをした)鼠	9/10
⑦北風と太陽	北風と太陽	7/10
⑧塩を運んでいるロバ	塩を運ぶ驢馬	0/10
⑨王さまをほしがっているカエル	(王さまを求める蛙たち)	8/10
⑩棒のおしえ	(兄弟喧嘩をする)百性の息子たち	0/10
⑪漁師と大きい魚と小さい魚	漁師(と大きい魚どもと小さい魚ども)	0/10
⑫ウサギとカメ	亀と兎	7/10
⑬旅人とクマ	旅人たちと熊	9/10
⑭木こりとヘルメス	樵夫とヘルメス	0/10
⑮うそつきの子ども	悪戯をする羊飼	8/10

ここで気がつく事は少年文庫版で有名な話とした15話の中資料として使った明治、大正、昭和戦中までの「イソップ寓話集」10冊の中に上位では採用されていない話材が4話あることである。そのうち⑧「塩を運んでいるロバ」の話は、明治20年の文部省編纂になる『尋常小学読本巻』2年用に「ほねをしみせし馬の話」として採用され、明治36年第1期国定教科書『小学

国語読本巻三』にも同じ題で再話され採用されている。教科書に出た話であれば、知られているが、改めて「イソップ物語」に入れる必要がなかったのだろうか。

同じく上位では採用されなかった⑩「棒のおしえ」は、戦中の小学生であった筆者は、毛利元就の三人の息子達への教えとして〈1本の矢はたやすく折れるが、3本束ねたものは容易には折れない〉との譬で、兄弟仲良くすることの大切さを訓したという話を聞いている。天草本『イソポのハブラス』にも「百姓と子どもの事」で出てくる話材であるが、話としての面白さはない教訓性の強い話であり、よく知られているためにやはり「イソップ物語」からは省かれる傾向があったのであろうか。

⑪の「漁師と大きい魚と小さい魚」はストーリー性の乏しさで省かれたと考えれば納得できるが、⑭の「木こりとヘルメス」は、これが「イソップ寓話」の仲間だったのかと、改めて認識させられるような物語性に富んだ楽しい話である。「イソップ寓話」とは知らずに、幼ない時に絵本やお話の本で出逢っている人は多いと思われる。動物寓話ではないため異質の感じがあって採用率が低くなっているのだろうか。

最近の「イソップ物語」「イソップ絵本」の5～6冊を見て気がつく話材の特徴は、動物登場の話が多いことである。しかし、これはすでに明治後期以後、「イソップ寓話」が子どもの読者を対象に編集されるようになった時から始っていた傾向とみてよいようである。

## 2) 内容と表現

その内容分析は、子どものための「イソップ物語」についてまだ十分な検討を行っていないが、話材選択の傾向からも言及したように、子どもに親しみ易い動物ものが多く扱われるようになっている。「イソップ寓話」は本来簡潔で短く飾りのない文章で、ずばりと本質をついているのがその特徴であるが、話を面白くするための、情景描写や性格描写を加え、起承転結のはっきりしたお話としての形を整えて再話が

行われる傾向がみられる。そのため、教訓性は後退し、文学性が高くなっているといえるのではないだろうか。このことについては、更に実証的な検討考察が必要であって、仮説の域を出ないが、読者に押しつける形で教訓性が前面に出ている話よりは、文学性によって読者を感動させ、お話の世界に引き込み、情動的に共鳴、同化できる再話の方がより影響力が高いと考えられる。

ここで「狐と葡萄の房」の数篇を引用してみよう。

① キツネとブドウ (『イソップのお話』  
河野与一訳, 1955年)

おなかのすいたキツネが、ブドウだながらさがっているブドウを見て、それをとりたいたいとおもいましたが、だめでした。そこで、たちさりながら、ひとりごとをいいました。

「あれは、すっぱいや。」

こういうふう人間の中には、力がないためにできないことがあると、時節のせいにするものがあります。

② 正しき望み (狐と葡萄) (『イソップお伽話』1911年 巖谷季雄著)

諸君、自分の力では、逆も達し得られぬ様な、大きな望みを抱いて、夫が仕遂げられぬ時は、直に自棄を起す位なら、初めからそんな野心を抱くより、正しい希望を持って、だんだん進んで行く方が、いくら幸福か知れません。

或時一匹の狐が、腹の空いたのを我慢して、路を歩いて居る中やがて廣い廣い葡萄畑に、さも旨さうな葡萄の實が、鈴なりになって居るのを見て、もう食べたくて仕様がありませんから、幾度も飛び付いて取らうとしましたが、高い棚の上にあるので、どうしても思う様に取れません。

それで、幾度も跳ねて居る中に、体は段

々疲れるのに、葡萄は一粒も食べられませんから、狐はどうとう自棄を起し、

「何だ、こんな青い葡萄が食べられるもんか。食ったら酸っぱくて仕様がないう。」

と、毒づいて、其まゝ行ってしまひました。

③ きつね と ぶどう

(『イソップ童話集』菊池寛著 1927年)

一びきのきつねが、ペコペコに、へったおなかをかかえて、あるいてゐますと、とある、みちばたに、すてきに、うまそうなぶどうが、ふさふさと、たれさがって、居ました。きつねは、のどを、ならしながら、ぶどうに、とびつきましたが、かなり高いところに、ぶらさがってゐるので、中々、手が、とどきません。

ああもして見、かうもして見、いろいろ考えながら、やって見ましたが、どうしても、手が、とどかなかつたので、とうとうおしまひに、きつねは、はらをたててしまつて、

「なんだ、あんな、すっぱいぶどうなんか、だれがたべるもんか、たのまれたって、ごめんだよ。」

と、ぶつぶつ、ぶどうの、わるくちを、いひながら、行ってしまひましたとき。

④ きつねと ぶどう (『イソップ童話』  
村岡花子文, 1966年初)

森にぶどうの木があり、おいしそうなみがたくさんっていました。

一びきのおなかをすかしたきつねがとおりかかって、これを見つめました。

「こいつはありがたい、おもわぬごちそうにありつきたわい。」

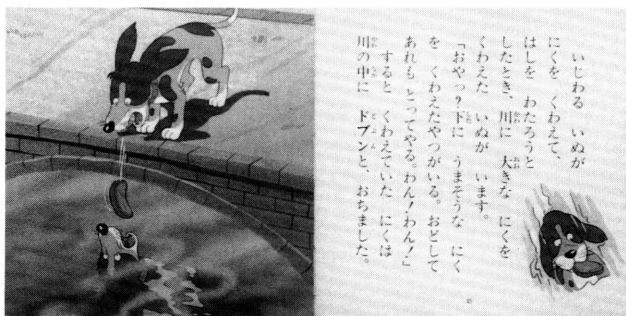
きつねはよろこんで、さっそく、せのびをして、むらさき色にじゅくした、一ふさのぶどうをもぎとろうとしました。でも、ぜんぜん、手がとどきません。

児童書に採用された伝承文芸

「なあにとびつけば、わけないさ。」  
 きつねはいまいました。そうにいった、ぴよ  
 んと、とびあがりました。けれども、やは  
 り手がとどきません。  
 きつねは、二、三かい、つづけさまにと

びあがりました。でも、やっぱり、手がと  
 どきません。

「ええい、じゅくしてなくてもいいや。青  
 いのだって、あじはおなじことだ。おれは  
 おなかですいて目がくらみそうなんだ。」



雄鶏社発行

『イソップものがたり』より  
 「よくばりいぬ」



ポプラ社発行

『アニメファンタジー  
 イソップものがたり』  
 「ありときりぎりす」



学研発行

『イソップ童話』より  
 「きんのおの」



学研発行

『イソップ童話』より  
 「ライオンとねずみ」

きつねは、すこし下にぶらさがっている  
まだ青いみをねらって、力いっぱいとびあ  
がりました。

ところが、青いぶどうも、もうすこしと  
いうところで、やっぱり、手がとどきませ  
ん。

きつねは、あせをかきながら、いくども、  
くりかえました。

しかし、だめでした。

とうとう、きつねは、いまいましそにし  
たうちをして、

「あのぶどうのみは、どれもこれも青くて  
まだ、じゅくしていないんだ。とてもすっ  
ぱくて、たべられはしないだろう。」

と、いって、ぶどうの木のそばからたちさ  
りました。

きつねは、ぶどうのみに手がとどかず、  
とうとう一つぶもたべられなかったので、  
くやしきでこんなことをいったのです  
ね。

引用が長くなってしまったが、①はジャン  
プ版ギリシャ語の原文をほぼ忠実に訳出したも  
のということで、簡潔で無駄のない短い文章の  
中ですべてを云いつくしている感じがある。し  
かし、どうだめだったのか、幼い子どもにはイ  
メージが湧きにくいという問題がある。②は巖  
谷小波の口演調で、教訓型の典型である。これ  
も年長児向けであるが、独特の語り口調からそ  
れなりのイメージが描かれるようで、わかり易  
い。③の菊池寛著は、昭和2年という時期にし  
ては、大変新しい感じを受けるすぐれた幼年向  
け童話に仕立てている。挿絵も一流の童画家岡  
本帰一等によってつけられ、楽しい、美しい本  
である。「ああもして見、かうもして見」とい  
う部分を、少し具体的な行動の例で叙述すれば  
幼児・低学年向けに完全な再話といえるのでは  
ないかと考える。④は初版が1966年、1979年ま  
でに32刷を重ね、1985年に改訂版を出したロン  
グセラー本で、現在市販されている村岡花子の

文に山中冬児が絵をつけた26話、解説つき126  
ページのカラー版である。偕成社発行の愛蔵版  
で小学初級中級向の全国学校図書館協議会選定  
図書になっている児童書である。かなり長文に  
なって、すっきり切れ味が良いとはいえないが、  
狐の気持ちがひとり言のセリフになって親しみ  
やすくなっている。最後にひと言、寓意の解説  
があるが教訓性はあまり強くなって、ストー  
リー性に重点がおかれている。

その他、現代の幼年向け「イソップ物語」に  
は、文章を少なくして絵が語る「絵話イソップ」  
や「イソップ絵本」「アニメ画絵本」「マンガイ  
ソップ物語」など、映像時代を反映したさまざ  
まな技法による表現も種々使われている。(前  
頁写真参照)

このような児童書を通して接する「イソップ  
寓話」から現代の子ども達がどのような影響を  
受けるのか興味深い。

### 3 「イソップ寓話」の影響

われわれは、古くから伝わる「イソップ寓話」  
が、現代の大人達にどのように伝えられ、どの  
ような影響を及ぼしているかを知りたいと思い、  
今回は予備調査の段階ではあるが、アンケート  
調査を行った。そのうちの一部を報告する。

調査対象は、東京家政大学附属幼稚園児の母  
親41名で平均年齢は34.6歳である。調査内容は  
岩波少年文庫『イソップのお話』の中の有名な  
話15篇(前掲表1)とイソップ寓話との比較検  
討のため日本の五大昔話(ももたろう、かちか  
ち山、さるかに合戦、したきりすずめ、はなさ  
かじじい)、グリム童話6篇(オオカミと七ひ  
きのこやぎ、シンデレラ、ヘンゼルとグレー  
テル、赤ずきん、白雪姫、ブレーメンの音楽隊)  
について、①お話の既知、②知った時期、③場  
所、④方法、⑤お話の印象、⑥ストーリーの記  
憶、⑦お話の内容が教訓的であると思うか否か、  
⑧お話が現在の生活に影響を及ぼしているか否  
かの8方向からの問いを設定した。その他、子

どもに与えているお話、子どもが好きなお話、子どもに読ませたい本とその理由などについて自由記述により回答を求めた。

まずお話の既知については、イソップ寓話15のうち、「セミとアリ、北風と太陽、ウサギとカメ、野ネズミと家ネズミ、木こりとヘルメス」は88%~100%、「棒のおしえ、王さまを欲しがっているカエル、漁師と大きい魚と小さい魚」は79~20%、日本の昔話、グリム童話はほぼ100%知っているという結果が得られた。印象の強かったお話は、既知で高率であった「野ネズミと家ネズミ」がやや低くなり、既知で高率を示した他のお話と、うそつきの子どもが50~76%の者に印象が強かったと回答されている。特に「ウサギとカメ、うそつきの子ども」は印象が強いことが示されている。グリム童話では「シンデレラ、白雪姫」の印象が強く、他のグリム童話や日本の昔話も印象が強い傾向を示している。教訓的であるか否については、イソップ寓話のほとんどが教訓的であるとする傾向が強く、「野ネズミと家ネズミ」がイソップ寓話の中で「ただおもしろく楽しい」と最も多く(37%)回答されたお話であるが、この話さえ教訓的であるとする者が42%になっている。昔話は「したきりすずめ、はなさかじじい」を教訓的とする者が多いが、おもしろく楽しいとする率もイソップ寓話より多く、「ももたろう」は66%である。グリム童話は「狼と七匹のこやぎ」を34%の者が教訓的と回答したのが最も多く、他はおもしろく楽しいと回答している者の方が多い。調査に取り上げたお話が現在の生活に影響しているかどうかについては、「うそつきの子ども、ウサギとカメ」が55%、「セミとアリ、肉をくわえたイヌ、北風と太陽、木こりとヘルメス」が30~40%影響があると回答し、昔話、グリム童話は影響なしと回答した者が70%以上となっている。

以上のことから、イソップ寓話に関しては、お話を知っていてしかも印象が強く、教訓的であるものが現在の生活に影響を与えており、欲

ばらない、うそをつかない、怠けない、努力するなど、“~してはならない、~せねばならぬ”という態度や価値の形成に影響を与えていることがわかる。

一方昔話やグリム童話は、お話を知っていて印象が強いにもかかわらず教訓的であると認知されておらず、現在の生活への影響はないとするものが多い。ストーリー性に豊んだ話が印象的であることはイソップ寓話、昔話、グリム童話に共通するが、生活そのものへの影響は内容が教訓的か否かによって異なったり、ストーリーの豊かさに関心される要因が強いために教訓をあからさまに受け入れないことによるのかもしれない。

次にこれらのお話をいつ頃、どこで、どのように知ったかについてみる。まずいつ頃かについて、イソップ寓話は「ウサギとカメ」が幼児期にする者が多い他は児童期とする者が多く、それに対し日本の昔話は幼児期が多く、グリム童話は幼児期、児童期にわたっているという結果が得られた。知った場所はほとんどが家庭であるがイソップ寓話の「セミとアリ、野ネズミと家ネズミ、北風と太陽、うそつきの子ども」又、グリム童話の「狼と七匹の子やぎ、ブレーメンの音楽隊」は30%前後の者が幼稚園や保育所、学校という家庭外で知る機会を持っている。話の伝達者については、イソップ寓話は50~70%の者が自分で絵本や本で読んだとし、「北風と太陽」は先生に、「ウサギとカメ」は家の人という傾向を示している。それに対し、日本の昔話は家の人に読んでもらった者が多く、グリム童話では「赤ずきん」が家の人に、「ブレーメンの音楽隊」は自分で読んだとするものが多く、他は自分で、又は家の人に、がほぼ同程度の傾向を示している。

これらのことから、戦後生まれの回答者の世代においては、イソップ寓話は児童期に自分で、日本の昔話は幼児期に家の人から、グリム童話は二者の間という傾向がみられ、お話の伝達時期、経路の違いが、受け手の子どもにとって

影響する方向性を異にするかどうかは、さらに検討を必要とするであろう。

## おわりに

児童学の領域が抱える研究課題はさまざまであるが、子どもが幼児期から身近な人々やいろいろなメディアをとおして聞いたり、見たり、読んだりしたお話の世界の経験内容は、その人格形成に大きな影響を与える要因のひとつである。

なかでも、寓話・民話・伝説など、その心が生活風土の中に有形、無形の糧となつて融けこんでいる伝承の文芸は、われわれの現在の生活様式や価値観の形成基盤となっていることが考えられる。その意味で、本研究が意図したことの意義は大きく、その成果が期待されるものであろう。

本プロジェクトのわれわれ児童学グループはその手がかりとして伝承文芸がどのような形で子ども達に伝えられているのかを解明し、そこにわが国の児童観や教育観の反映を見たいと考えた。また、それを通して、過去から未来に向けての子ども教育や文化の問題を考えてみようとした。

いろいろな伝承文芸の中から「イソップ寓話」を研究の中心においたのは、中世末期という早い時代に海外から伝えられた「イソップ寓話」の数々が近世を経て、近代以降の児童性の発見の過程の中で、子どもの本として採用されるようになった経緯が比較的容易に把握できるのではということがその理由であった。しかし、研究を進める程にその奥の深さにおののかされてきた。研究課題としては、少し範囲を広げてしまったようであるので、今後は小さな問題をひとつひとつ実証的に解決しながら大きなテーマに向つて積み上げていきたいと考えている。その意味でプロジェクトの研究期間が3年間の終りを迎える今、研究は漸く緒についた感じである。この3年間の活動を基礎にしてこれから発

展させていきたいと思っている。ささやかな研究のために、いろいろとご援助いただいたことに深く感謝の意を捧げます。

## 文献

### A 資料

- 1) イソップ寓話集 山本光雄訳 岩波文庫  
1974改版 [Ésop fable, texte etabliet  
traduit par Émil Chambry, Paris, 1927]  
のギリシャ原文を底本としている。
- 2) ESOPONO FABVLAS 今泉忠義編 桜楓社  
天草本伊曾保物語1593 復刻ローマ字  
テキスト1959
- 3) 伊曾保物語(上)(中)(下) 日本古典文學大系90  
假名草子集 岩波書店 1965
- 4) 伊曾保物語 伊藤三右衛門開板 万治2年  
1656
- 5) 日本教科書大系 近代編 第4巻～第9巻  
国語(一)～(六) 講談社 1964
- 6) 新譯伊蘇普物語 青溪散史著 積善館  
<5> 1892
- 7) 新訳伊蘇普物語 上田萬年解説 鐘美堂  
<3> 1907
- 8) 正譯伊蘇普物語 佐藤潔訳 小川尚文堂  
<4> 1907
- 9) ポケット新訳イソップ物語 馬場直美編  
岡村盛花堂 1910
- 10) 伊曾保物語 旧雨桜校訂 百華書店  
<初> 1911
- 11) イソップお伽噺 巖谷季雄著 三立社  
<初> 1911
- 12) イソップお伽 小坂漂著 弘文社<10>  
1927
- 13) イソップ童話集 菊池寛(訳・編) 文芸春秋社  
1927
- 14) イソップ物語 新村出訳著 アルス 1929
- 15) イソップ物語 楠山正雄訳 一木淳挿絵  
春陽堂 1933
- 16) イソップ 新村出 岩波書店 1934
- 17) 新イソップ物語 山岸外史訳編 主婦之友



児童書に採用された伝承文芸

- 社 1941
- 18) イソップのお話 河野与一編訳 岩波書店 1955
  - 19) イソップ童話〔上〕〔下〕 二宮フサ訳 偕成社 1985 改訂版
  - 20) イソップ童話 村岡花子文 山中冬児絵 偕成社 1985 改訂版
  - 21) 童蒙教草 福沢諭吉全集 第3巻 岩波書店 1959
  - 22) イソップものがたり アニメファンタジー ポプラ社 1978
  - 23) ひらけポンキッキのイソップえほん 赤塚不二夫 フジテレビ 1988
  - 24) イソップがいっぱい 足沢良子 講談社 1986
  - 25) イソップものがたり 雄鶏社 1987
  - 26) イソップ童話 学研 1987

B 引用・参考文献

- 1) 少年文学史 明治篇 木村小舟 童話春秋社 1949
- 2) 明治少年文化史話 木村小舟 童話春秋社 1948
- 3) 増補改訂 日本の児童文学 菅忠道 大月書店 1956
- 4) 落穂ひろい(上)(下) 瀬田貞二著 福音館書店 1982
- 5) 子どもの本の百年史 尾崎秀樹他著 明治図書 1973
- 6) 英米児童文学史 瀬田貞二他著 研究社 1971
- 7) 英米児童文学年表 翻訳年表 清水真砂子 八木田宜子編 研究社 1972
- 8) イソップ寓話—その伝承と変容— 小堀桂一郎著 中公新書 1978